

II . 前期基本計画

【第3次総合戦略】

1. 前期基本計画施策体系



**基本施策
（島づくりの基本の取り組み）**

- 01 妊娠・子育て・幼児教育の包括支援の推進
- 02 学校教育・文化社会教育の充実
- 03 医療・福祉・健康づくりの充実
- 04 生活基盤・社会環境の整備
- 05 災害に強い島づくり
- 06 暮らしの立つ農業地域づくり
- 07 多面的な漁業の振興
- 08 製造業・複合産業の振興
- 09 商業・観光業の振興
- 10 新しいビジネスの創出
- 11 連携する産業振興体制づくり
- 12 島の豊かな自然資源の保護・活用
- 13 伝統文化の継承と文化遺産の保護・活用
- 14 久米島らしい景観づくりの推進
- 15 再生可能エネルギーによるエネルギー自給率向上
- 16 移住定住の促進と関係人口の拡大
- 17 久米島らしいブランドの確立
- 18 情報発信力の強化
- 19 住民にわかりやすく効率的な行財政運営
- 20 町民みんなで推進する総合計画

住民が語る「久米島らしさ」

自然・人・文化がつながる、持続可能な未来へ

ワークショップに15名の住民が集まりました。テーマは、「久米島らしさとは何か?」。第3次総合計画への反映を目指し、私たちが守るべき島の魅力や、次世代につなぐためのアイデアについて、車座になって語り合いました。「自然」「人の心」「産業」がバラバラではなく、すべてつながっているという深い気づきでした。



心と暮らしの視点

オンリーワンの「精神の豊かさ」

「ちむがなさ」こそが島のDNA

「久米島らしさ」を問われて真っ先に挙げたのは、美しい風景以上に、そこに息づく「人の心」でした。困った時はお互い様という「ユイマール」の精神や、新しく来た人を温かく迎え入れる姿勢。参加者たちは、この「ちむがなさ（思いやり）」の精神文化こそが島の正体であり、最大の魅力であると口を揃えました。この温かい土壌があるからこそ、子どもたちは素直に育ち、誰もが安心して暮らせる社会が維持されているのです。

「ない」ことの贅沢と独自の立ち位置

ジャンクフード店がなく、信号や渋滞も少ない現状を「不便」と嘆くのではなく、「余計なものがないからこそ、豊かな時間が流れる」と肯定的に定義し直したのです。観光客の数ばかりを追うのではなく、精神的な豊かさを求める層に響くような、質の高い癒やしの島であり続けること。それが、住民が選び取った久米島独自のポジションです。

自然と産業の視点

「保存」を超えて「再生」へ向かう

「再生」と「循環」への転換

自然と経済の関係については、現状維持を意味する「保全」にとどまらず、一步踏み込んだ議論が展開されました。赤土流出などの課題に対し、森、川、海（イノー）を一連のつながりとして捉え、傷ついた自然を「再生」し、持続的に「循環」させるレベルまで引き上げるべきだという高い意識が共有されました。ただ守るだけでなく、人の手で自然を健やかに回復させることが、次世代への責任であるという考え方です。

自然は「親」、産業は「子」

久米島紬、海洋深層水、泡盛、そして農業。これら全ての産業は、豊かな水と自然環境があって初めて成り立ちます。「産業発展を急いで自然を壊しては本末転倒である」という強い警鐘が鳴らされました。自然という「親」を敬い、その恵みの中で営む「生態系調和型農業」や地産地消の推進など、経済活動と環境再生が矛盾せず、両立する道こそが久米島らしい産業の姿であるとされました。

文化と教育の視点

形だけでなく「意味」をつなぐ

32集落の「多様性」という誇り

文化面において強調されたのは、島を一括りにするのではなく、「32の集落」それぞれの個性を尊重する視点です。集落ごとに言葉遣いや生活習慣、獅子舞や角力といった行事が微妙に異なることこそが、久米島の面白さであり、豊かさの源泉です。画一的な開発ではなく、この「違い」を多様性として誇れる感性を守ることが重要視されました。

「なぜ？」を深掘りする教育の転換

独自の文化を次世代へつなぐために、教育の質的な転換も求められています。伝統行事をただ形として繰り返すのでは、子どもたちにとって「やらされるもの」になりかねません。「なぜその行事を行うのか」「先人は何を願ったのか」という歴史的背景や意味を丁寧に伝えること。偉人や史跡から島の歴史を深掘りする「郷土学習」を通じて、理屈抜きに「島に生まれてよかった」と思える深い郷土愛を育むことが、最も確実な持続化策とされました。

2. リーディングプロジェクト

ここでは、前期基本計画期間において、島づくりを牽引する、また、基本施策の先導的な役割を果たす5つのリーディングプロジェクトを紹介します。

リーディングプロジェクトは、アンケートやワークショップなどから得られた住民の意向、統計データや庁内ヒアリングなどから見えてきた“町が優先して取り組むべき課題”に対して、分野を横断して複数の施策を組み合わせることにより、課題解決を目指すものです。

5つのリーディングプロジェクト

- 1 交流とコミュニティ 対話による島づくり
- 2 多様な「まなび」の実現
- 3 地域資源を活用した産業振興
- 4 久米島の文化と景観を活かしたまちづくり
- 5 コンパクトに繋がる島づくり

1

久米島らしさが繋がるプロジェクト

交流とコミュニティ 対話による島づくり

■リーディングプロジェクトの考え方

久米島は、古くから豊かな自然に恵まれ、地域に根付いた暮らしの中で人々が深い絆を結び合い、助け合いながら暮らしてきました。

島ならではの結びつきが、人々の生活を支え、地域の活力を育んできました。しかし近年は人口減少や高齢化が進み、島民同士の交流機会や地域活動の担い手が減少しつつあります。また、新たに島へ移り住んだ人々の地域との関り、世代間や島内外の人々の交流が希薄していく恐れがあります。

久米島が目指すべき「交流とコミュニケーション」の方向は、対話を通じて地域の課題を共有し、多様な人々が参加しながら共に地域の未来を考え、行動できる「対話型コミュニティ」の形成です。地域・事業者・行政それぞれが主体的、又は協働でしまづくりに関わり、話し合い、知恵を出し合うことで、島の魅力や暮らしやすさの向上を図ります。

久米島の地域らしさを守り育て、住民同士の交流と対話を基盤に、持続可能で魅力的な地域社会の形成を目指します。



■リーディングプロジェクトの展開

1. 交流拠点の創出

対話による島づくりを推進していくためには、地域の交流拠点の機能充実が重要です。地域の拠点施設となるコミュニティセンターの機能充実・強化を行い、多様なコミュニティ活動の拠点形成、子どもやお年寄りの見守り体制の構築、強化を図ります。多様な世代が交流し、地域コミュニティ力の向上、公助・共助の文化を育みます。

～リーディングプロジェクトを推進する施策～

- 【施策01_施策の展開2】安心して子育てできる環境整備
- 【施策03_施策の展開3】福祉の充実
- 【施策03_施策の展開4】高齢者が安心して暮らせる島づくり
- 【施策20_施策の展開2】地域力の向上と計画推進に向けた取り組み

2. 世代や出身地を越えた多様な交流機会の創出

久米島の特徴ある自然や伝統文化、産業活動を活かした交流やコミュニケーションの機会を創出し、地域への愛着を深め、相互理解の促進を図ります。

特に、若者や高齢者、地元出身者と移住者など、様々な立場の住民が交流できるよう、多様なイベントや交流機会の創出を進めます。

～リーディングプロジェクトを推進する施策～

- 【施策09_施策の展開1】観光インフラ・施設の利活用促進
- 【施策09_施策の展開4】スポーツレクリエーション施設の観光活用
- 【施策13_施策の展開4】伝統文化の継承者の育成
- 【施策16_施策の展開3】交流人口の拡大

■リーディングプロジェクトの目指そう指標（KPI）

住んでいる地域での暮らしの満足度
(住民アンケート)

基準値 (R5)

72.8%



基準値 (R12)

85.0%

2

久米島らしさを知る・育むプロジェクト

多彩な「まなび」の実現

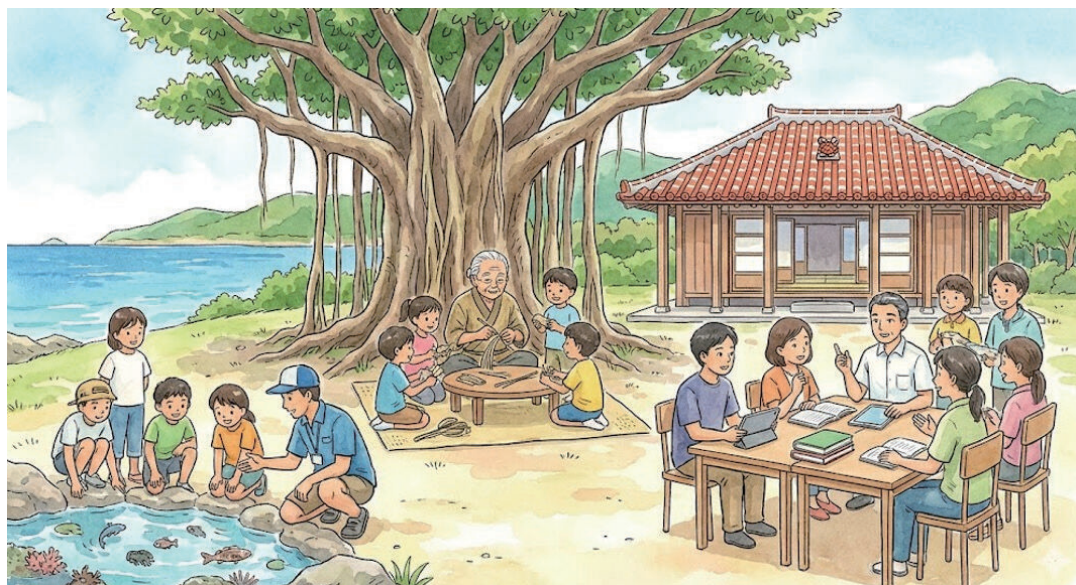
■リーディングプロジェクトの考え方

久米島は美しい自然環境に恵まれ、豊かな文化や伝統に囲まれた、学びの機会に溢れる地域です。子どもたちは地域の自然や伝統文化に触れながら成長し、高齢者はこれまで培ってきた知識や技能を活かして地域の支え手となっています。

しかし、現状では島内の教育資源や機会が限られているため、若い世代が進学や就職を理由に島外へ流出し、高齢者にとっても学びや交流の機会が不足し、社会的孤立が生まれる傾向にあります。

久米島が目指すべき「まなび」の方向は、子どもから高齢者まで、それぞれのライフステージやニーズに応じた多彩で、久米島らしい、久米島ならではの教育・生涯学習の機会を充実させることです。これにより、若者が島に住み続けたいくなる環境をつくり、高齢者も活力をもって生きがいを感じながら地域社会に参加できる環境づくりを進めます。

子育てから高齢者までが、生涯を通じて多彩な学びを享受できる地域環境を整備し、地域の持続可能性や魅力向上を目指します。



■リーディングプロジェクトの展開

1. 久米島ならではの多彩な学びの充実

久米島ならではの学びとは、特徴ある自然や伝統文化に身近にふれあい、多様な地域資源を活かし、ここでしか体験することができない学びであります。

久米島の自然環境や伝統文化、農業や水産業など多様な地域資源を活かした学びの充実を図り、島への愛着を育みます。

～リーディングプロジェクトを推進する施策～

【施策02_施策の展開3】小中学校教育の充実

【施策10_施策の展開2】高校教育の充実島の特性を生かした新ビジネスの創出

【施策11_施策の展開3】未来を見据えた人材確保・育成

【施策12_施策の展開1】自然環境及び希少動物の保全と活用

【施策13_施策の展開1】歴史、民俗、文化財等調査研究の拡充

2. ライフステージに応じた多様な学びの提供

久米島で暮らす子どもから高齢者が、島での生きがいがあり、ハツラツとした生活ができるよう、ライフステージに応じた多彩な学び・生涯学習の充実を推進します。

また、世代交流の機会を推進・創出し、地域の伝統文化やコミュニティに触れ、地域の魅力を知り、また、新たな語り部や講師として、各世代へ引き継ぎます。

特に高齢者においては福祉事業と連動し、昔語りや地域語りなど回想法（レミニセンス療法）を実施し、地域の歴史・文化継承に繋がります。

～リーディングプロジェクトを推進する施策～

【施策01_施策の展開3】幼児教育の充実

【施策02_施策の展開3】文化社会教育・生涯学習

【施策13_施策の展開4】伝統文化の継承者の育成

【施策16_施策の展開3】交流人口の拡大

■リーディングプロジェクトの目指そう指標（KPI）

島への愛着・誇り
（住民アンケート）

基準値（R6）

83.6%



基準値（R12）

85.0%

3

久米島らしさで経済発展プロジェクト

地域資源を活用した産業振興

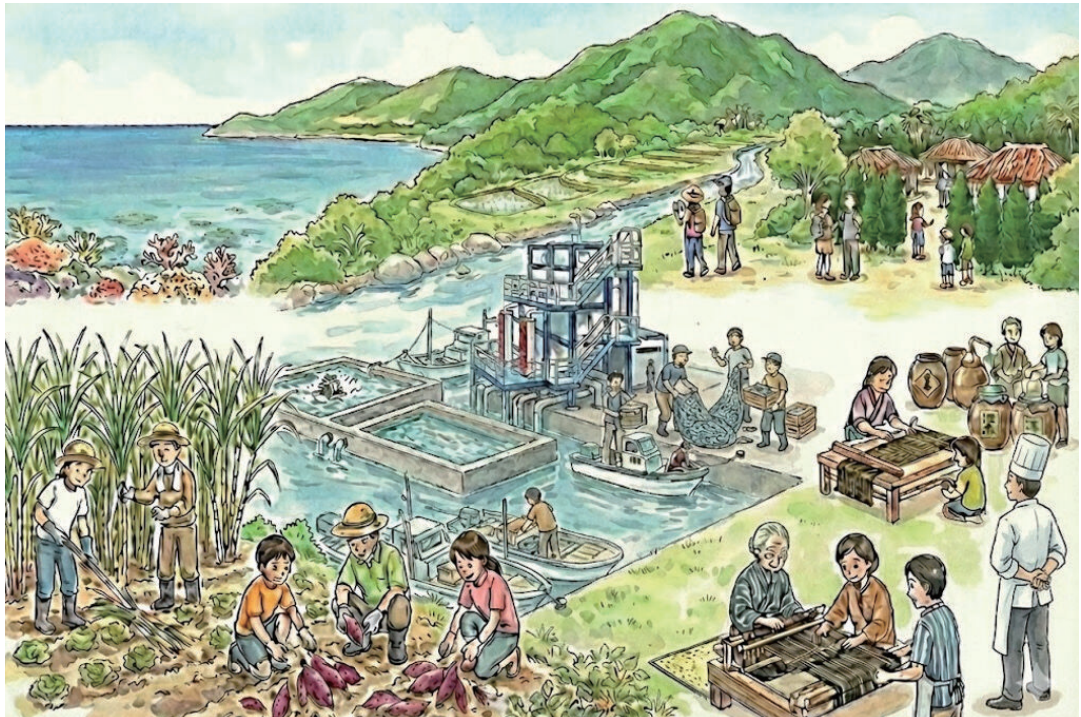
■リーディングプロジェクトの考え方

久米島は、周囲を豊かな海に囲まれ、貴重な動植物が生息する山林をはじめとした特有の自然が豊富に存在します。こうした豊かで特徴ある自然、特に「水」を享受し、稲作、染織（久米島紬）、酒造りが行われてきました。

また、島内には肥沃な土地が広がり、サトウキビや紅芋などの農業、海洋深層水を活用した車エビ、モズクなどの水産養殖業も盛んに行われ、豊かな自然資源や環境は、島の観光振興にも寄与しており、島の自然があってこそその生業、産業と言えます。

こうした島の豊かな自然資源を保全しながら島の伝統産業を発展させ、また、観光関連業の振興を推進していくためには、自然と共存する産業振興を図っていく必要があります。久米島が目指すべき「産業振興」の方向は、自然を含む地域資源を持続的に活用しながらも、付加価値の高い産業を創出し、島内外の市場において競争力を高め、地域経済の持続的な成長と、島の人々の暮らしの安定・向上を図ります。

産業間が連携し、貴重な地域資源を守り育て、自然と調和した産業振興を目指します。



■リーディングプロジェクトの展開

1. 好循環な経済活動

島の農業、水産業、製造業（織物、酒造、食品加工）は、島の豊かな水を享受し、また最大限に活かすことで発達・産業成長に繋がりました。また、特徴ある魅力的な自然環境は、観光へも活かされ、訪れる人たちを魅了しています。

久米島の産業振興を持続的に進めるためには、地域の豊かな自然環境や農水産資源、人的リソースを活用し、地元経済の循環を促進します。さらに、環境への負担を抑えた産業活動を促進し、経済と環境がバランス良く発展する産業振興を図ります。

また、地域資源として学校教育や地域学習と連携するなど、久米島の生業・産業の理解と関心を深めていきます。

～リーディングプロジェクトを推進する施策～

- 【施策02_施策の展開3】文化社会教育・生涯学習
- 【施策10_施策の展開2】島の特性を生かした新ビジネスの創出
- 【施策11_施策の展開3】未来を見据えた人材確保・育成
- 【施策12_施策の展開1】自然環境及び希少動物の保全と活用
- 【施策17_施策の展開1】久米島らしいブランド価値の創出と発信

2. ライフステージに応じた多様な学びの提供

久米島で暮らす子どもから高齢者が、島での生きがいがあり、ハツラツとした生活ができるよう、ライフステージに応じた多彩な学び・生涯学習の充実を推進します。

また、世代交流の機会を推進・創出し、地域の伝統文化やコミュニティに触れ、地域の魅力を知り、また、新たな語り部や講師として、各世代へ引き継ぎます。

特に高齢者においては福祉事業と連動し、昔語りや地域語りなど回想法（レミニセンス療法）を実施し、地域の歴史・文化継承に繋がります。

～リーディングプロジェクトを推進する施策～

- 【施策07_施策の展開1】効率的な生産環境づくり
- 【施策08_施策の展開3】海洋深層水事業の推進
- 【施策11_施策の展開1】連携する産業振興体制づくり

■リーディングプロジェクトの目指そう指標（KPI）



4

久米島らしさを魅せるプロジェクト

久米島の文化と景観を活かしたまちづくり

■リーディングプロジェクトの考え方

久米島は沖縄の中でも美しい島として知られ、特徴的で豊かな自然景観を誇ります。島には青く透き通った海や真っ白な砂浜、美しいサンゴ礁、そして豊かな山林や田園風景、赤瓦の家屋やフクギ並木で形成される伝統集落など、島の景観が訪れる人を魅了しています。また、久米島紬をはじめとした伝統的な織物、古くから伝わる島唄、祭りや年中行事など、独特な文化が息づき、人々の暮らしの中に深く根付いています。

しかし、近年では、まちづくりの近代化や、老朽家屋の建替え、樹木伐採などにより、島本来の景観や、まちに溶け込んでいる地域らしさが見えづらく、又は失われています。

島固有の自然や文化が失われれば、久米島の魅力そのものが薄れ、地域のアイデンティティが揺らぐ可能性もあります。そのため、久米島の美しい自然景観や独自の文化・歴史を守り育て、「久米島らしさ」を保つオンリーワンのまちづくりが今こそ必要と考えます。

久米島が目指すべき「文化と景観を活かしたまちづくり」の方向は、地域の景観や文化的資源を住民自身が大切にし、次世代へと継承していくことです。

自然環境の保全と調和を図り、地域の文化的な景観が輝くまちづくりを目指します。



■リーディングプロジェクトの展開

1. 久米島らしい景観づくり

久米島らしさとは、特徴ある地形や自然環境の上に、人々が暮らし生活や生業が築かれ、歴史的に形成されてきた文化や景観（風景）を指します。当たり前に見てきた景観は、久米島らしさを表しており、ここにしかない文化を特徴づけています。

こうした久米島らしい景観価値を評価し、文化資源を活かしたまちづくりを進め、ここにしかない魅力のあるオンリーワンのまちづくりを目指します。

～リーディングプロジェクトを推進する施策～

【施策04_施策の展開3】地域特性に応じた安全・快適な住環境の形成

【施策13_施策の展開3】文化資源の保存と活用の促進

【施策14_施策の展開1】島の特徴を生かした景観形成と誘導の仕組みづくり

2. 地域資源のブランド化による地域活性化

久米島が持つ自然・文化・暮らし・人の魅力を「ブランド」として再定義し、住民が誇りを持って語り、外からも魅力として受け取られるような「まちづくり＝ブランディングの実践」に取り組みます。住民全体の意識醸成・プライド醸成、しまづくりへの参画を起点とし、地域の魅力を可視化・価値化し、島内外に持続的に発信していくことを通じて、観光振興、交流人口の拡大など地域経済の活性化に繋がります

～リーディングプロジェクトを推進する施策～

【施策04_施策の展開3】地域特性に応じた安全・快適な住環境の形成

【施策10_施策の展開2】島の特徴を生かした新ビジネスの創出

【施策16_施策の展開3】交流人口の拡大

【施策17_施策の展開1】久米島らしいブランド価値の創出と発信

■リーディングプロジェクトの目指そう指標（KPI）

自慢できるまちなみ・景観がある
(住民アンケート)

基準値 (R6)

67.7%



基準値 (R12)

85.0%

5

久米島らしい土地利用とインフラ整備プロジェクト

コンパクトに繋がる島づくり

■リーディングプロジェクトの考え方

久米島は、美しい海や山、川など多様な自然環境が広がり、それぞれの集落ごとに独自の暮らしや文化が根付いている島です。また、肥沃な土壌や豊かな水資源を活かした農地、海辺の空間を利用した観光やレクリエーションスポットなど、自然と生活が調和した土地利用が行われています。

一方で、人口減少や高齢化によって、集落や商店街などの生活拠点の維持や、地域交通・社会インフラの確保が難しくなる可能性があります。さらに、公共施設の老朽化とその維持管理も大きな課題となっています。人口が減る社会に対応しながら、人々が住み続けられる社会基盤を整えることが重要です。

久米島が目指すべき「土地利用とインフラ整備」の方向は、自然環境と人の活動エリアとのバランスを保ちながら、持続可能な空間構造を構築することです。「自然と暮らしが調和し、安心・快適に移動できるコンパクトでつながる島」を目指します。

久米島の「土地利用とインフラ整備」の方針は、自然環境と人々の生活エリアのバランスを大切に、持続可能な空間づくりを進めることです。自然と暮らしがうまく調和し、人々が安心して快適に移動できるコンパクトでつながりのある島を目指しています。



■リーディングプロジェクトの展開

1. 住環境の保全と交通ネットワークの確保

久米島の土地利用は、自然・文化・暮らしが調和した「人と自然の共生空間」として形成されてきました。今後、人口減少や高齢化が進む中で、無秩序な住宅のスプロールの防止や、防災・環境保全に配慮した土地利用の最適化が求められます。農地や海岸線など久米島の風景・生態系を守りながら、島らしい景観と安全で持続可能な居住環境を両立させます。

また、久米島の持続可能な発展には、島内の移動と島外とのアクセスを一体で捉えた交通ネットワークの最適化が不可欠です。観光客や住民、高齢者など多様な利用者のニーズに応じた公共交通の再編や、デジタル技術を活用したオンデマンド交通・シェアモビリティの導入により、利便性と効率性を高めます。

～ リーディングプロジェクトを推進する施策 ～

【施策04_施策の展開1】交通の便利な島づくり

【施策04_施策の展開3】地域特性に応じた安全・快適な住環境の形成

【施策12_施策の展開1】自然環境及び希少動物の保全と活用

【施策16_施策の展開1】久米島らしいブランド価値の創出と発信

2. 安全・安心で持続可能なインフラ整備

久米島のインフラ整備は、災害に強く、環境と調和した「安全・安心の島づくり」を支える基盤です。老朽化施設の更新や防災機能の強化に加え、ICTやデジタル技術を活用した情報インフラの充実が求められます。これにより、災害時の情報共有、遠隔医療や教育、交通・エネルギー管理の効率化など、日常と非常時の双方で安心して暮らせる環境を整えます。人と情報のネットワークが融合した、持続可能で賢いインフラ体系を構築します。

～ リーディングプロジェクトを推進する施策 ～

【施策04_施策の展開2】暮らしを支える生活インフラの充実

【施策05_施策の展開1】防災・減災体制の強化

【施策15_施策の展開1】クリーンエネルギーの導入

【施策18_施策の展開2】情報化社会に対応する島づくり

■リーディングプロジェクトの目指そう指標（KPI）

今後も久米島に住み続けたい
(住民アンケート)

基準値（R6）

75.5%



基準値（R12）

85.0%

子育ての「リアル」と「未来」

ママたちの本音トーク！私たちが、ずっとこの島で暮らすために。

令和6年12月15日、比嘉公民館にて「ママさんワークショップ」を開催しました。会場にはキッズスペースや見守りスタッフを配置。子どもたちの賑やかな声をBGMに、8名のママさんが集結。「子どもたちの未来のために」という共通の想いで、島の良いところも、悩んでいることも、包み隠さず話し合いました。



人材交流を充実して、島で1つに！

親も先生たちも心にゆとりが持てるような仕組みが大事

Good!!

ここが好き！久米島の子育て！！

やっぱり最高！豊かな自然

「自然環境への満足度は高い」という意見で一致しました。海や緑に囲まれて、のびのびと感性を育てる環境は、何物にも代えがたい島の宝物です。

地域の「お節介」が温かい

「地域で気軽に声をかけてくれる関係性は安心する」という声も。都会にはない、顔の見える「横のつながり」が、孤独になりがちな子育てを支えています。

息抜きの場所がある

「飲食店の数は維持してほしい。子育ての息抜きの場所でもある」という声からは、島のお店がママたちの心のオアシスになっていることが分かります。

Real...

ここが切実！子育ての「壁」

「産めない・診れない」医療の不安

最大の悩みは医療です。「島内で出産できない」「専門医がいない」ため、通院には渡航費がかさみます。「実際に症状がある時に受診できない」「救急時に担当医がいない」という不安は、親として非常に大きなストレスになっています。

「雨の日」の行き場がない

晴れの日には最高ですが、「雨の日の過ごし方に困っている」のが現状です。「児童館のような、室内で体を使って遊べる場所が欲しい」。動物園や博物館のような文化的刺激が少なく、那覇に行かないと体験させてあげられないもどかしさもあります。

「預け先」と罪悪感

「病児保育がない」「ベビーシッターは高額」という課題に加え、「土曜保育を使いたいが、仕事以外だと罪悪感がある」というママ特有の悩みも。お母さんが自分時間を持ってリフレッシュすることへのハードルが、まだ高いようです。

Ideas

未来を変える「前向きな提案」

「ウィンウィン」な預かり合い

「土曜日だけの保育所を作る。ママは堂々と預けられてリフレッシュでき、先生の収入にもなる仕組みがあればいい。」双方が幸せになるシステム作り。

先生ともっと話したい！

「お母さんと先生で、雑談や意見交換の場が欲しい」。お昼寝時間などを活用してコミュニケーションを深めれば、信頼関係はもっと強くなります。

「コラボ型」で負担を減らす

新しいことをゼロからやるのは大変。「今やっていることのついでにやる（コラボ型）」で、負担を分散しながら地域づくりに参加したいという、現実的で頼もしい意見も出ました



産業の壁を越えろ！産業間連携の未来

「働き甲斐のある島」「稼げる島」になるために！

令和6年12月16日、久米島の経済を支える5つの団体から、18名の若手リーダーや担当者が集結しました。テーマは「これからの働き方と産業連携」。業種は違っても、全員が直面している壁は「人手不足」と「後継者不足」でした。「もう、ひとつの産業だけで解決するのは無理だ」。危機感を共有した彼らが導き出した答えは、業種の垣根を越えて協力し、しっかりと利益を生み出す「稼げる島」への転換でした。



共通課題と解決策のアイデア

【共通課題1】 季節によって仕事の繁閑 (忙しさ)に波がある	【共通課題2】 賃金が上がりにくく、 生活が安定しない	【共通課題3】 どこにどんな仕事があるか 分からない(ミスマッチ)
解決策	解決策	解決策
<p>産業間での「出向」</p> <p>「観光客が減る冬場」と「サトウキビの収穫期(冬)」をマッチングさせるなど、忙しい時期が異なる産業間でスタッフが行き来する仕組みを作ります。これにより、年間を通して安定した雇用を確保します。</p>	<p>「副業」の解禁・推奨</p> <p>ひとつの会社からの給料だけに頼るのではなく、複数の仕事(副業)を持つことをポジティブに推奨します。島内での収入源を増やし、若者が生活への不安なく「働き続けられる環境」を整えます。</p>	<p>求人「見える化」と一元管理</p> <p>「観光」「農業」「商工」とバラバラに出ている求人情報を一箇所に集約します。島全体の求人を「見える化」することで、移住者や働き手に最適な仕事を提案し、人材の取りこぼしを防ぎます。</p>

産業間連携トランスフォーメーション！

<p>ベテラン農家 × サラリーマン・住民</p> <p>「後継者がいない」という悩みを解決するために、引退した「農家OB」が指導者となり、農家以外の住民(会社員など)が参加できる「共同農地」を運営するアイデアです。「週末だけ農業に関わりたい」という住民をプロが育てることで、農業へのハードルを下げ、新しい担い手(兼業農家など)の発掘につなげます。</p>	<p>観光インフラ × 伝統工芸(紬・物産)</p> <p>素晴らしい技術や商品があるのに「売り方がわからない・販路がない」という課題。これを、年間多くの人を訪れる「観光」の発信力と掛け合わせます。観光案内所やWebサイトを活用し、久米島紬やかりゆしウェアのPR・ネット販売を強化。「観光客」を「購入者」に変える仕組みをつくります。</p>
<p>全産業の求人 × 見える化</p> <p>観光だけでなく、全産業の求人情報を一元化(見える化)します。移住希望者や島内の働き手に、「あなたに合う仕事はこれ」と提案できるマッチング機能を強化し、人手不足とミスマッチを解消します。</p>	<p>職場 × コミュニティ</p> <p>仕事の悩みや目標を共有できる「明るいコミュニティ」づくりを推進します。孤立を防ぎ、「この島で働き続けたい」と思える環境を整えることで、人材流出を防ぎます。</p>

ワークショップで出た産業振興・産業間連携の合言葉は、「ひとりで解決しようとしなさい」でした。「商工会の定例会に、農家や観光業者も呼ぼう」「青年部同士で飲み会をしよう」。こうした草の根の交流から生まれる「チーム久米島」のスクラムこそが、私たちがこの島で働きがいを持ち、豊かに暮らすための最強の戦略です。

中学生が描く！久米島の「未来地図」

「笑顔」と「充実」でつくる、僕たちがずっと暮らしたい島

「将来、この島がどんな場所になってほしい？」そんなテーマで、島の中学生たちが本音を語り合うワークショップが開催されました。参加したのは、球美中学校（19名）と久米島西中学校（15名）の生徒たち。大人たちが気づかない視点や、思わず「なるほど！」と唸るユニークな提案が飛び交った、熱気あふれる議論の様子をレポートします！

球美中学校

キーワードは「愛」と「笑顔」！

将来像

笑顔いっぱいな島

自然あふれる楽しく暮らしやすい島

安全でのんびりできる働きがいのある楽しい島

愛を持って助け合い笑顔溢れる過ごしやすい島

どのチームにも共通していたのは、「笑顔」「楽しい」「助け合い」という温かいキーワード。「新しく来た人に歓迎のプレゼントを渡す」「お年寄りと仲良し」など、人と人の距離が近い島でありたいという願いが込められています。一方で、「バスの本数を増やして」「病院を大きくして」といった、安心・安全な暮らしへの切実な要望も多く挙がりました。



久米島西中学校

キーワードは「充実」と「世界」！

将来像

充実した島

自然と幸せあふれる島～全世界の観光の行き先～

自然豊かな島

西中の特徴は、視野の広さと戦略的なアイデアです。「全世界の観光の行き先」を目指して「町公式インスタ開設」「CM制作」などPRを強化しようという声や、「5G導入」「資格取得支援」など、島のインフラや教育の「中身の充実」を求める声が強くなりました。また、自然保護についても「赤土対策」「エコ製品」など、かなり具体的な提案が出ています。



みんなの共通点

「バーデハウス復活」と「雨の日の居場所」

両校から名指しで挙がったのが「バーデハウスの復活」です。また、「映画館」「ゲームセンター」「スタバ」など表現は異なりますが、共通しているのは「雨の日でも、室内で友達と楽しく過ごせる場所がほしい」という願い。学びの場だけでなく、心を解放できる「遊びの場」を切望しています。

「世界」を意識したプライド

球美中は「世界ウケするものを作る」、西中は「全世界の観光の行き先」。どちらも「久米島の良さは世界に通用する」という強いプライドを持っています。島の中だけで完結せず、外に向けて魅力を発信したいという意欲は、両校共通の熱い想いです。

美しい島を「自分たちの手で」守りたい

自然に関しては「きれいだといいな」という願望だけでなく、「アクション（行動）」の意見で一致。ゴミ対策：ゴミ拾い活動、ポイ捨て防止、分別の徹底
保護活動：ウミガメ・サンゴの保護、赤土流出防止
美しい海や緑を、大人任せにせず自分たちで守ろうとする責任感がにじみ出ています。

医療と交通への「強烈な不安」

生活面では、大人以上にシビアな視点を持っています。
医療：病院を大きくして、専門医や看護師を増やして。
交通：バスの本数増加、定時運行
自分や家族が病気になった時の不安、バスの不便さは、日々の生活に直結する切実な悩みです。

III . 基本施策

前期基本計画の見方

前期基本計画の各施策については、下記のような構成となっています。

- 施策ページの見方 -

■各施策の施策名と、4つの分野における島づくりの目標を示しています。

■ 施策番号および4つの分野のテーマカラーを示しています。

- 赤色** 生活暮らし
- 青色** 生業産業
- 緑色** 自然環境
- 黄色** 統合調和

施策01

生活・暮らしの基本目標 | みんなが幸せに暮らせる島づくり
妊娠・子育て・幼児教育の包括支援の推進

現状

出産

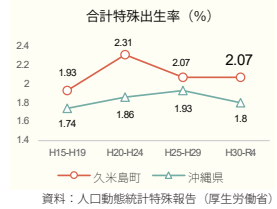
- 島内での出産は医療体制の制約により困難であり、今後もこの状況が大きく変わる見込みはありません。

子育て

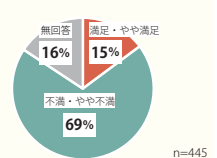
- 低出生体重児率が全国・県と比較して高い状況です。
- 乳幼児健診の受診率が全国・県と比較して低い状況です。
- 子育て支援の拡大や、子どもの居場所づくり等については一定の前進が見られる一方、「認定こども園整備の必要性」や、「園舎等の老朽化」、「放課後児童クラブの過剰供給」などの課題が指摘されています。

幼児教育

- 教育・保育施設（幼稚園、保育園）において、個別の配慮や支援を必要とする幼児が増えています。
- 0~4歳児は保育園、5歳児は幼稚園の対象となっています。



産前産後を安心して過ごせるか



課題

出産

- 妊娠前から出産後まで、切れ目のない支援プログラムの体系化を検討する必要があります。
- 「安心して出産に臨める渡航体制」や「島外出産後の手厚いフォローアップ」など、現実的な方向へのシフトを検討する必要があります。「安心して出産に臨める渡航体制」「出産後の手厚いフォローアップ」の支援の充実を図る必要があります。

子育て

- 子どもの健やかな発育・発達の確認、保護者の育児不安の軽減、迅速で適切な支援への早期介入の視点から、乳幼児健診受診率を高める必要があります。
- 男女が共に正しい知識を持ち、将来の妊娠やライフデザインを視野に入れながら生活できるよう、学齢期からの事業展開が必要です。

幼児教育

- 配慮を要する子に対する支援者の資質向上と人材確保、支援機会の充実が課題となっています。
- 就学前の教育・保育の充実、義務教育への切れ目のない支援の観点から、就学前の教育・保育施設の再編について検討する必要があります。

《用語解説》

認定こども園
 就学前の子どもに教育と保育を一体的に提供し、地域の子育て支援も行う、都道府県認定の施設。

■ 町の現状や課題、これまでの取り組み状況を記載しています。また、現状や課題に関連するグラフ・写真・表などを掲載しています。

■ 施策に関連する専門用語などを解説しています。

リーディングプロジェクト(LP)を推進する施策を示しています。

- ★ LP1-1 交流機会の創出
- ★ LP1-2 世代や出身を超えた多様な交流機会の創出
- ★ LP2-1 久米島ならではの多彩な学びの充実
- ★ LP2-2 ライフステージに応じた多様な学びの提供
- ★ LP3-1 好循環な経済活動
- ★ LP3-2 海洋深層水を活かした横断的な産業振興
- ★ LP4-1 久米島らしい景観づくり
- ★ LP4-2 地域資源のブランド化による地域活性化
- ★ LP5-1 住環境の保全と交通ネットワークの確保
- ★ LP5-2 安全・安心で持続可能なインフラ整備

施策の実施主体または関連主体を示しています。

水道	上下水道課	福祉	福祉課
消防	消防本部	教育	教育課
産業	産業振興課	建設	建設課
農業	農業委員会	環境	環境保全課
議会	議会事務局	総務	総務課
こども	子ども未来課	給食	学校給食センター
町民	町民課	企画	企画財政課
		博物	博物館
		商観	商工観光課
		空港	空港管理事務所
		プロ	プロジェクト推進課
		出納	出納室

施策の展開

(1) 安心して出産できるサポートの充実

1. 不妊治療や出産に関する費用助成を継続・充実させ、安心して妊娠・出産・産後期を迎えられる環境を整えます。
2. 母子手帳交付時から育児期まで、専門職による切れ目ない相談体制を構築するとともに、必要な支援へつなげる体制を整備します。

(2) 安心して子育てできる環境整備

1. 子育て支援のニーズの多様化に対応していけるよう、子ども・子育て支援事業の量の見込みに基づき、必要なサービスの整備に取り組みます。
2. 障がい児・発達障がい児の支援体制強化、理解促進の周知に取り組み、地域で支える環境を整えます。
3. 母子推進員、ファミサポまかせて会員等、子育て支援に関わる人材確保及び育成に取り組みるとともに、関係機関と連携し事業を展開していきます。
4. 子どもが安心して遊び・交流できるよう、公園・公民館の整備や安全管理に努めるとともに、交通事故や犯罪に巻き込まれることがないよう、関係機関と連携した対策に取り組みます。

(3) 幼児教育の充実

1. 認定こども園の整備推進とあわせ、就学前の教育・保育施設の再編についても検討します。
2. 教育・保育人材の確保、幼稚園・保育園における教育・保育の質の向上などの取り組みを推進します。
3. 幼児期から児童期まで、環境が変わっても、子どもの学びと育ちを途切れさせないため、一貫した視点で生きる力を育むため、保育園・幼稚園・小学校の連携を強化し、切れ目ない子育て・教育支援体制を整えます。

目指そう指標

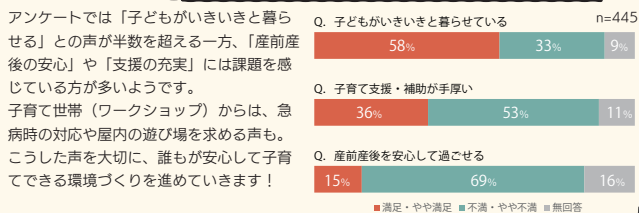


■ 前期基本計画において実施する施策の方向性や具体的な取り組みを記載しています。

■ 施策を展開していくことで数値として成果が見えてくる事項に対して、目標値を定めています。この目標値は、毎年最新数値を確認し、進捗具合をチェックします。

コラム

子育て環境の満足度について



■ 各施策に関連して、アンケート結果やワークショップでの意見などを紹介しています。施策の背景や住民の皆さんの声を分かりやすくお伝えするためのコーナーです。

(ここに写真が入ります。)

生活・暮らしの基本施策

みんなが幸せに暮らせるしまづくり

妊娠・子育て・幼児教育の包括支援の推進

現状

出産

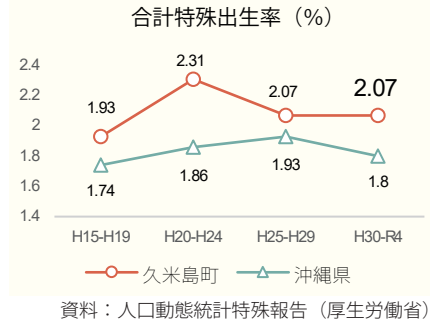
- ・島内での出産は医療体制の制約により困難であり、今後もこの状況が大きく変わる見込みはありません。

子育て

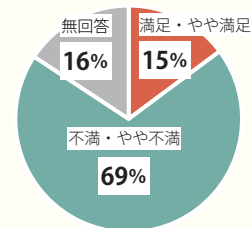
- ・低出生体重児率が全国・県と比較して高い状況です。
- ・乳幼児健診の受診率が全国・県と比較して低い状況です。
- ・子育て支援の拡大や、子どもの居場所づくり等については一定の前進が見られる一方、「認定こども園整備の必要性」や、「園舎等の老朽化」、「放課後児童クラブの過剰供給」などの課題が指摘されています。

幼児教育

- ・教育・保育施設（幼稚園、保育園）において、個別の配慮や支援を必要とする幼児が増えています。
- ・0～4歳児は保育園、5歳児は幼稚園の対象となっています。



産前産後を安心して過ごせるか



課題

出産

- ・妊娠前から出産後まで、切れ目のない支援プログラムの体系化を検討する必要があります。
- ・「安心して出産に臨める渡航体制」や「島外出産後の手厚いフォローアップ」など、現実的な方向へのシフトを検討する必要があります。「安心して出産に臨める渡航体制」「出産後の手厚いフォローアップ」の支援の充実を図る必要があります。

子育て

- ・子どもの健やかな発育・発達の確認、保護者の育児不安の軽減、迅速で適切な支援への早期介入の視点から、乳幼児健診受診率を高める必要があります。
- ・男女が共に正しい知識を持ち、将来の妊娠やライフデザインを視野に入れながら生活できるよう、学齢期からの事業展開が必要です。

幼児教育

- ・配慮を要する子に対する支援者の資質向上と人材確保、支援機会の充実が課題となっています。
- ・就学前の教育・保育の充実、義務教育への切れ目のない支援の観点から、就学前の教育・保育施設の再編について検討する必要があります。

《用語解説》

認定こども園

就学前の子どもに教育と保育を一体的に提供し、地域の子育て支援も行う、都道府県認定の施設。

施策の展開

(1) 安心して出産できるサポートの充実 **こど**

- 1. 不妊治療や出産に関する費用助成を継続・充実させ、安心して妊娠・出産・産後期を迎えられる環境を整えます。
- 2. 母子手帳交付時から育児期まで、専門職による切れ目ない相談体制を構築するとともに、必要な支援へつなげる体制を整備します。

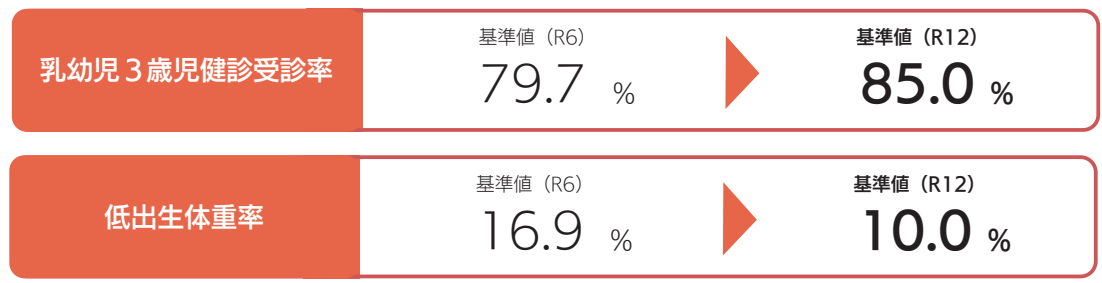
(2) 安心して子育てできる環境整備 **★LP1-1** **こど** **教育** **建設** **環境** **総務**

- 1. 子育て支援のニーズの多様化に 대응していけるよう、子ども・子育て支援事業の量の見込みに基づき、必要なサービスの整備に取り組みます。
- 2. 障がい児・発達障がい児の支援体制強化、理解促進の周知に取り組み、地域で支える環境を整えます。
- 3. 母子推進員、ファミサポまかせて会員等、子育て支援に関わる人材確保及び育成に取り組むとともに、関係機関と連携し事業を展開していきます。
- 4. 子どもが安心して遊び・交流できるよう、公園・公民館の整備や安全管理に努めるとともに、交通事故や犯罪に巻き込まれることがないように、関係機関と連携した対策に取り組みます。

(3) 幼児教育の充実 **★LP2-2** **こど** **教育**

- 1. 認定こども園の整備推進とあわせ、就学前の教育・保育施設の再編についても検討します。
- 2. 教育・保育人材の確保、幼稚園・保育園における教育・保育の質の向上などの取り組みを推進します。
- 3. 幼児期から児童期まで、環境が変わっても、子どもの学びと育ちを途切れさせないため、一貫した視点で生きる力を育てるため、保育園・幼稚園・小学校の連携を強化し、切れ目ない子育て・教育支援体制を整えます。

目指そう指標



子育て環境の満足度について

アンケートでは「子どもがいきいきと暮らせる」との声が半数を超える一方、「産前産後の安心」や「支援の充実」には課題を感じている方が多いようです。子育て世帯（ワークショップ）からは、急病時の対応や屋内の遊び場を求める声も。こうした声を大切に、誰もが安心して子育てできる環境づくりを進めていきます！

n=445

Q. 子どもがいきいきと暮らせている	58%	33%	9%
Q. 子育て支援・補助が手厚い	36%	53%	11%
Q. 産前産後を安心して過ごせる	15%	69%	16%

■ 満足・やや満足 ■ 不満・やや不満 ■ 無回答

学校教育・文化社会教育の充実

現状

小中学校教育

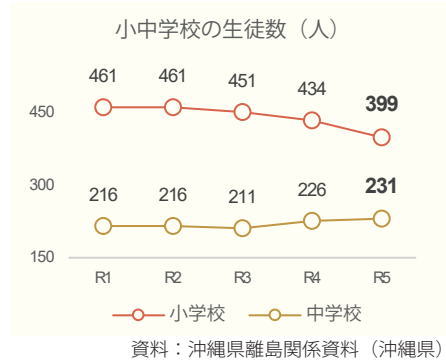
- ・ 少子化により児童・生徒数が減少し、複式学級の増加や小規模校での教育機会の制約が顕在化しています。
- ・ 学校施設のハード面の老朽化が進行している一方、教育現場のICT環境等のソフト面整備は着実に進んでいます。
- ・ 教職員の確保が困難で、代替教員不足により安定した体制維持と業務過多が課題です。

高校教育

- ・ 生徒・教員数の減少や教職員の異動により、教育の継続性や学校の魅力低下が懸念されています。
- ・ 離島留学制度においては、一定の成果が見られ、地域外からの生徒の受け入れが進められている状況です。

文化社会教育・生涯学習

- ・ 自然や文化資源には、学習機会としての活用の可能性があるが、十分に活かされていない状況にあります。
- ・ 各字公民館は機能面の制約等により、地域の居場所・学習の場として活用が進んでいない状況です。
- ・ 住民には世代間交流や地域活動への関与など、地域のつながりや学びの場への潜在的ニーズがあります。



▼ 写真：久米島博物館



課題

小中学校教育

- ・ 生徒の基礎学力や体力向上に向けた支援の充実や、地域と連携した教育体制の強化が必要です。
- ・ 老朽化した学校施設の整備や、適正規模・配置、合同学習による教育環境の整備と教育機会の拡充が課題です。
- ・ 人材確保が困難な中、代替教員手配や業務軽減を含む体制整備と人材確保の強化が喫緊の課題です。
- ・ ICT教育の効果的な活用に向け、教員用の端末整備や指導支援体制の構築を含む運用体制の見直し

高校教育

- ・ 久米島高校魅力化プロジェクトを継続・拡大し、町内外から選ばれる教育環境の構築が必要です。
- ・ 離島留学制度は成果がある一方、さらなる発展に向けては制度の一層の充実が必要です。

文化社会教育・生涯学習

- ・ 老朽化した各字公民館を改善し、学習・交流機能を十分に発揮できる環境を整えることが必要です。

《用語解説》

ESD

地球的な視野を持つ住民を育成することを目的とする教育。

施策の展開

(1) 小中学校教育の充実 ★LP2-1 教育 給食

1. 学習活動の充実と強化を今後も継続し、学力及び体力の向上を図ります。
2. 豊かな心を育むため、道徳・人権・ESD・体験・郷土学習など、学力以外の教育の充実を図ります。
3. 学校と地域が連携した教育支援体制の強化や、援助が必要な家庭への適切な支援等、地域や家庭と連携した教育環境を構築します。
4. 教員への端末配備等 ICT 教育環境を整備し、デジタル教材やオンライン学習を活用できる環境を整えます。
5. 住居確保や交通費補助などを含む教員誘致プログラムを検討し、離島で働く魅力を高めて安定的な教員確保につなげます。
6. 学校の適正規模・配置の検討や合同学習により、教育環境整備と教育機会の拡充を図ります。
7. 老朽化施設は適切に維持管理し、適正規模・配置の検討についても対応します。

(2) 高校教育の充実 ★LP2-1 教育 企画

1. 久米島高校魅力化プロジェクトの推進・強化を図り、町内中学校から久米島高校への進学率向上に努めます。
2. 離島留学制度を再構築し、久米島高校の魅力向上と活性化に取り組みます。
3. 奨学金支援や基金の運用により、生徒が安心して学べる環境を確保します。
4. 学習センター（町営塾）の指導者支援体制充実と、人材確保に努めます。

(3) 文化社会教育・生涯学習 ★LP2-2 教育 企画 博物

1. 博物館やほんのもりなどの社会教育施設を、町民が広く利用できるよう適切に管理・運営し、施設の充実を図ります。
2. 具志川改善センターの適切な維持管理を行い、新たな拠点整備の検討を進めます。
3. 地域の伝統文化、文化イベント、社会体育や町民交流会などが継続・発展できるよう支援に努めます。

目指そう指標

全国学力・学習状況調査における
平均正答率の全国との差

基準値 (R7)

小6 ▲ 1.0pt
中3 ▲ 2.3pt

基準値 (R12)

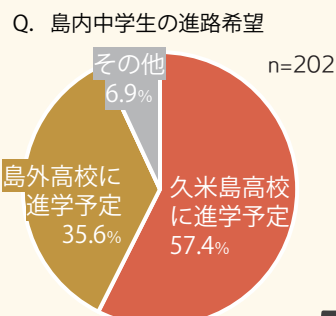
小6 2.5pt以上
中3 ▲ 2.3pt以上

コラム

島内中学生の進路希望について

中学生へのアンケートでは、久米島高校への進学希望は約6割にとどまり、約4割の生徒が島外への進学を考えている現状が明らかになりました。

これを真摯に受け止め、久米島高校が「選ばれる学校」となるよう、魅力化プロジェクトをさらに加速させます！
カリキュラムや部活動の充実など、子どもたちが「ここで学びたい」と思える環境をつくり、進学希望者を増やしていきます！



医療・福祉・健康づくりの充実

現状

健康づくりと予防支援

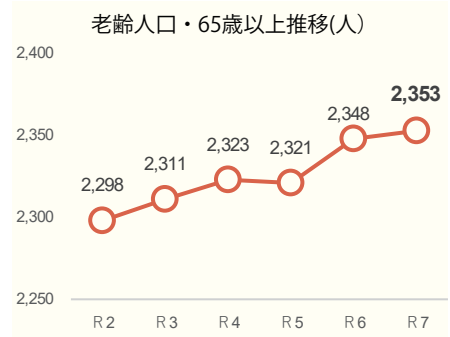
- ・健康診断の受診率が低くなっています。
- ・専門医の不足により、適切な医療へのアクセスが困難な場合があります。
- ・若年層でも介護が必要な状態や早期死亡の事例が報告されています。

運動・スポーツ参加促進

- ・住民の運動習慣定着が求められる一方で日常的な運動機会は不足しており、パークゴルフ大会や親子スポーツ大会などの地域イベントが、そのきっかけとして一定の役割を果たしています。

地域包括型の医療・福祉体制の整備

- ・これまでの取り組みにより地域の医療・福祉体制は一定の成果を上げ、予防医療や高齢者支援の充実などを通じて医療の質やアクセスも改善しています。
- ・高齢化が進み、単身高齢者の割合も増加しています。



資料：住民基本台帳（総務省）

課題

健康づくりと予防支援

- ・地域全体で健康リテラシー（健康に関する知識や判断力）を高める必要があります。
- ・予防支援の体制づくりを早急に進めることが求められています。
- ・世代を問わず、早期の健康予防を推進する取り組みが必要です。
- ・地域での健康意識の醸成（高め合い、共有すること）が重要です。

運動・スポーツ参加促進

- ・運動への参加意欲やニーズは年齢や家庭環境で異なるため、誰もが継続的に参加できる仕組みづくりと地域ぐるみの支援が求められます。

地域包括型の医療・福祉体制の整備

- ・高齢化による医療費増などに対応するため、制度や財政の見直しと、医療・福祉を一体とした地域連携体制の強化が重要です。
- ・高齢者の健康支援を含む地域全体でのケア体制の展開が不可欠となっています。

《用語解説》

ノーマライゼーション

障がいのある人もない人も互いに支え合い、地域で生き生きと明るく豊かに暮らしていける社会を目指す理念のこと。

地域包括的ケアシステム

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるように、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的・継続的に提供される体制のことです。

施策の展開

(1) 島民の健康づくり推進 福祉 教育 給食 商観

1. 町民一人ひとりが自主的に健康づくりに取り組めるよう意識醸成や環境整備を進め、全世代を対象とした運動支援や住民健診・がん検診の充実、特定健診受診率向上と専門指導者の確保に努めます。
2. 子ども健診の実施・経過観察を学校と連携して行い、生活習慣病予防や健康学習の促進、健診結果の継続的な管理・分析を通じて、子どもの健全な成長と保健事業の充実に努めます。
3. スポーツ・レクリエーション活動や特色あるイベントの企画・告知を通じて、町民の健康増進と交流促進、そして町の活性化を図ります。

(2) 医療体制の充実 福祉

1. 沖縄県離島医療組合の運営健全化と公立久米島病院との連携強化を図り、医療専門職の育成・確保や専門診療科の誘致に努めるとともに、通院渡航費助成の拡充で経済的負担軽減を推進します。

(3) 福祉の充実 ★LP1-1 福祉

1. 専門職の継続配置と関係機関との連携により福祉サービスの質向上と周知を図り、地域住民の理解促進や交流機会の創出を通じて障がい者の自立支援と社会全体でのサポートを強化します。
2. 民生委員・児童委員の人材確保や育成に努めるとともに、生活困窮者の早期把握と社会福祉協議会との連携による総合支援を行います。
3. ひとり親家庭への医療費助成強化で経済的・心理的負担の軽減を図ります。
4. 福祉サービスの充実と体制強化により障がい者と地域住民が共に暮らせるノーマライゼーション社会を目指し、周知活動や社会福祉協議会の事業充実、認知症支援の推進、安定した国保運営に努めます。

(4) 高齢者が安心して暮らせる島づくり 福祉

1. 老人クラブへの助成や広報を通じて高齢者の生きがいや居場所づくりを支援し、活動的な高齢社会の実現と高齢者の活躍促進に努めるとともに、地域包括ケアシステムの構築や認知症施策を推進します。
2. 高齢者が自分らしく暮らせるよう、老人クラブ参加促進や運動・栄養・介護予防支援、通いの場提供など地域活動の充実と閉じこもり防止に努めます。
3. 高齢者の栄養改善や在宅医療・介護の連携強化、介護従事者の負担軽減と人材育成、介護サービス充実と保険料低減、認知症の早期診断・ケア支援体制の構築に努めます。

目指そう指標

健康診断受診率

基準値 (R6)

45.2 %



基準値 (R12)

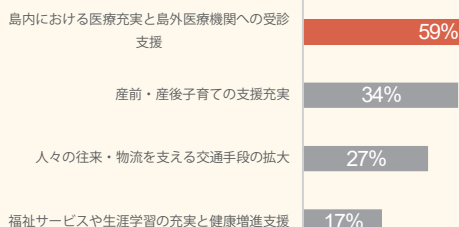
55.0 %

コラム

島の医療環境について

アンケートでは、生活において「医療の充実」を重視する声が約6割と最も多く挙がっています。特に30～40代の方々から不安の声が多く聞かれます。皆さまが島で安心して暮らせるよう、医療機関との連携や島外通院への支援、日々の健康づくり等、心身ともに健やかに過ごせる島づくりに全力で取り組みます！

Q. 生活・暮らしの視点で大切だと思うものを2つ
(対象回答者数445人・複数回答)



生活基盤・社会環境の整備

現状

交通

- ・ 道路や橋梁の整備・維持管理および県道・町道の除草・清掃を適宜実施しています。
- ・ 地域公共交通の運行支援、新規バス購入、交通弱者や小児・身体障がい者への運賃助成を実施しました。
- ・ 海上輸送では民間事業者が高速船就航を予定しています。

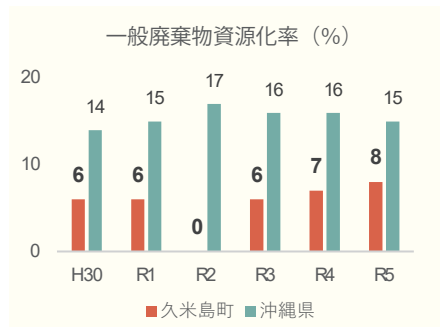
水資源と環境保全

- ・ 令和5年度から7か年計画で浄水場や管路の更新を進めています。
- ・ 久米島町では、1人1日あたりのごみ排出量が県内で7番目に高く、資源化率は9番目に低い状況です。また、海洋ごみが確認されており、海洋環境への悪影響が懸念されています。
- ・ 下水道が未整備の地域では生活排水が河川や海に流出し、海洋環境への悪影響が問題となっています。

安心・安全な住環境の形成

- ・ 空き家や老朽住宅の増加により、地域の景観や安全性が低下しています。
- ・ 住宅の供給が需要に追いつかず、住環境の整備が求められています。
- ・ 高齢者、若者、移住者など多様な住民の交流が少なく、地域の一体感や共生の体制が十分ではありません。

▼ 写真：久米島町営バス



課題

交通

- ・ 島内交通の利便性や島外との接続性が十分ではなく、観光客の移動手段や二次交通の整備が必要です。
- ・ 新たなモビリティやEV導入に向けた環境整備と体制づくりが求められています。

水資源と環境保全

- ・ 水道施設の老朽化対策や下水道・浄化槽の整備など、水循環の適正な管理が求められています。
- ・ ごみ削減や資源化率の向上、海洋ごみ・赤土流出への対策等、環境保全に向けた取組の強化が必要です。
- ・ 地域主体による環境美化活動を継続的に推進し、持続可能な環境づくりを進めることが重要です。

安心・安全な住環境の形成

- ・ 多様な世帯のニーズや地域の状況に応じた住環境の改善など、まち全体の住環境の質の向上に向けた取組が求められています。
- ・ 空き家や老朽住宅の適切な管理・活用が求められています。

《用語解説》

次世代モビリティ

電動車(EV)や自動運転等、新しい技術を活用した持続可能な移動手段。

ICT(情報通信技術)

情報の収集・処理・伝達を行う技術の総称。

施策の展開

(1) 交通の便利な島づくり **建設** **商観** **空港** **プロ**

1. 島内交通の利便性を高め、住民が安心して利用できる交通環境を構築します。
2. 島外との航空・海上輸送の利便性を向上させ、観光基盤や二次交通の整備を進めます。
3. 地域公共交通の課題解決や利便性を高めるため、次世代モビリティの導入を促進し、実証実験の受け入れにも取り組みます。

(2) 暮らしを支える生活インフラの充実 **建設** **水道** **環境**

1. 良好な住環境の実現に向け、空港、港湾、道路、浄水場、下水処理場などの生活基盤を適切に維持管理し、老朽化施設は計画的に更新します。
2. ごみ削減や分別の啓発、不法投棄防止や美化活動を推進し、住民や事業者の環境意識の向上に取り組みます。

(3) 安心・安全な住環境の形成 **建設** **企画** **環境** **プロ**

1. 空き家や老朽住宅の増加、住宅不足といった状況に対応し、空き家の利活用を推進します。
2. 地域ごとの住環境の改善とまち全体の景観・安全性の向上を図ります。
3. 離島の地理的特性を克服するため、関係機関と連携し、ICTの活用と環境整備を進めます。

目指そう指標

一般廃棄物 1日1人当たりの
排出量



一般廃棄物資源化率



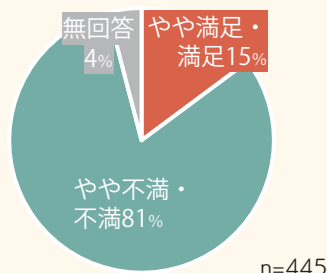
コラム

暮らしを支える生活インフラについて

アンケートでは、生活インフラへの厳しい評価が見られました。特に「公共交通」への満足度は約1割と低く、移動の不便さが浮き彫りになっています。また、約6割の方が「空き家の増加」を地域課題として挙げており、住環境への不安も募っています。

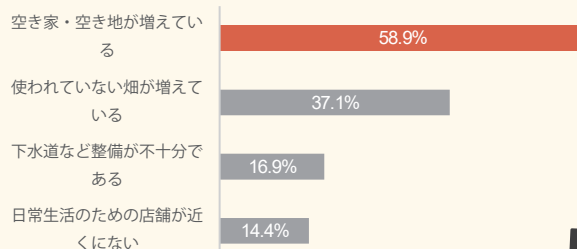
皆さまの足を確保する新たな交通の仕組みづくりや、空き家対策による住まいの整備など、暮らしの基盤を早急に立て直します！

Q. 公共交通で自由に移動ができる



Q. 島の土地利用についての問題点2つ

(対象回答者数445人・複数回答)



災害に強い島づくり

現状

防災意識

- ・避難施設の不足や住宅の老朽化など、災害リスクがやや高い状況にあります。
- ・災害時における地域の安全・安心を確保するため、公共施設や公民館、公園等を防災拠点として活用することが想定されています。
- ・現在、一部の施設は避難所や災害対応の場として利用されているが、防災機能を意識した施設整備や配置計画が十分に進んでいるとはいえません。また、施設の老朽化や設備面の不備も課題として指摘されています。

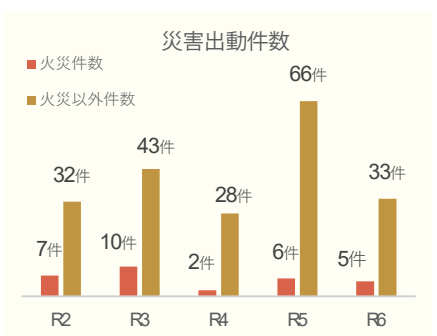
▼ 写真：久米島町複合型防災・地域交流センター



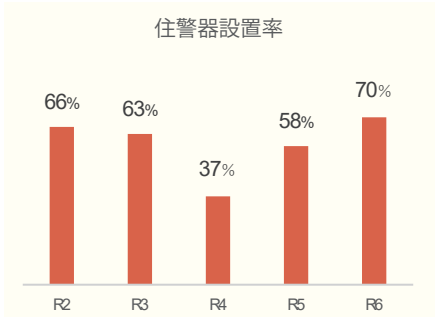
課題

防災・災害に強い地域づくり

- ・今後想定される大規模災害に備え、町内における防災体制の強化とともに、避難施設の整備・拡充が急務となっています。
また、老朽住宅や空き家の存在が避難経路や安全確保の妨げとなるケースも想定されることから、住宅の耐震化や危険家屋の解消も重要な課題です。特に、住民の安心感を高め、地域全体の防災力を底上げに向け、ハード・ソフト両面からの計画的な対応が求められています。
- ・災害時の対応力や安全性に関する信頼の欠如は、移住・定住促進、さらには人口流出対策の観点からも重要な課題です。災害に強い地域づくりに加え、住民に対してそれを実感できる情報発信や教育、施設整備などの取り組みが求められています。
- ・地域全体で災害に備えるためには、防災拠点としての公共施設・公民館の機能強化と、それを前提とした土地利用計画の策定が急務です。
災害時の避難受け入れ、物資集積、情報発信など多様な機能を持つ拠点整備に加え、拠点間のアクセスや広域的な防災ネットワークの構築も求められます。町内全域において防災対応の空白地帯をなくし、住民が安心して避難・滞在できる体制づくりが不可欠です。



資料：消防本部統計資料（久米島町）



資料：消防本部統計資料（久米島町）

《用語解説》

インフラ（インフラストラクチャー）
社会的経済基盤と社会的生産基盤とを形成するものの総称。道路・港湾・河川・鉄道・通信情報施設・下水道・学校・病院・公園・公営住宅などが含まれる。

避難行動要支援者（ひなんこうどうようしえんしゃ）
災害対策基本法において、災害が発生する場合またはそのおそれがある場合に、自ら避難することが困難で、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する人をいう。高齢者、障害者、乳幼児などが含まれる。

施策の展開

(1) 防災・減災体制の強化 ★LP5-2 総務 消防 建設

1. 地域防災力の向上に向けて、消防団・女性防火クラブ・自主防災組織等防災組織の強化、防災拠点やインフラの整備・改修、消防用設備の設置・維持管理の指導を徹底し、法令遵守の徹底と適正化を推進します。
2. 避難場所・避難経路の見直しを行い、安全な避難体制を構築します。防災倉庫の配置について検討するとともに、沿岸部については、津波災害等を想定した防災機能の強化を検討します。また、実効性のある避難計画等の策定を推進します。

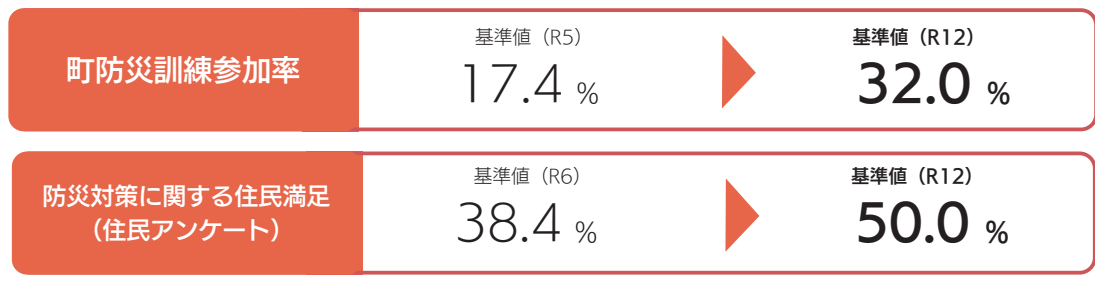
(2) 消防体制の充実 消防

1. 消防職員・消防団員の知識や技術の向上に向け、関係機関との合同訓練や研修への派遣を推進します。また、消防車両等の適切な維持管理に努め、各種災害への出動体制の強化を図ります。
2. 消防体制の充実を図るため、消防施設の更新（増改築）や訓練施設の機能強化など、ハード面の整

(3) 避難行動要支援者対策 消防 総務 福祉

1. 避難行動要支援者が災害時に安全に避難できるよう、医療福祉機関と地域が連携した防災訓練の実施や避難支援体制の構築を進めます。

目指そう指標



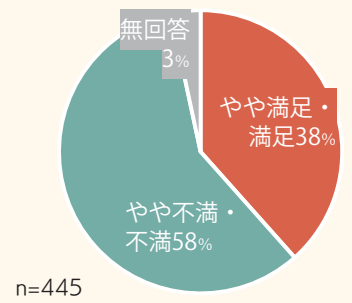
コラム

住民の声から考える防災対策について

アンケートでは、町の防災対策に「不満」を感じている方が過半数を占めました。自由意見でも、「台風や自然災害への不安」「防災放送が聞こえにくい地域がある」「高齢者や障がいのある方の避難支援が心配」といった切実な声が寄せられています。

この声を重く受け止め、避難施設の整備や実践的な訓練など、ハード・ソフト両面から「命を守る備え」を徹底し、誰もが安心して住み続けられる強い島をつくります！

Q. 防災対策がしっかりしている



(ここに写真が入ります。)

産業・生業の基本施策

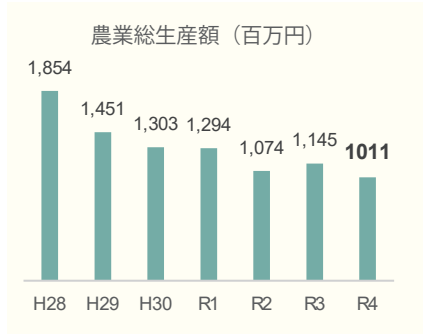
力を合わせて活気を生み出す島づくり

くらしの立つ農業地域づくり

現状

くらしの立つ農業地域づくり

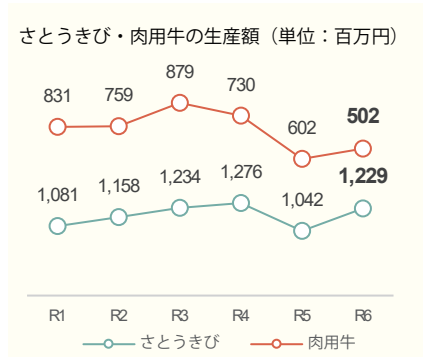
- ・ 農業者の高齢化が進み、新規就農者の参入が進んでいない状況です。
- ・ 農業の労働環境は改善傾向にあるものの、依然厳しい状況です。
- ・ 久米島では、地域ブランドや特産品の付加価値向上に取り組んでおり、一定の成果は見られます。
- ・ JAからは、農家戸数の減少、飼料価格の高騰による畜産生産量の減少等の意見がみられました。



資料：沖縄県市町村所得（沖縄県）

地消地産の推進

- ・ 久米島町内で生産された農水産物のうち野菜、畜産物、水産品においては島外からの輸入依存が高くなっています。
- ・ 学校給食や各種イベントを通して地場産品の利用促進に向けた取り組みが進められているが、供給の安定性や価格面に課題を抱えています。



資料：久米島町産業の概況（久米島町）

課題

くらしの立つ農業地域づくり

- ・ 農業の継続・発展には、新規就農者の確保・育成が課題であり、就農支援の充実と魅力発信が求められます。
- ・ 持続可能な産業とするためには、スマート農業の導入などにより、働きやすく、効率的な就労環境を整備する必要があります。
- ・ 今後は、販売促進や販路拡大に加えて、農業ツーリズムなど、多角的な展開によって地域農業の魅力向上と収益性の確保を目指す必要があります。
- ・ 農業の魅力を高めるためには、収益性の向上や働きやすさの確保など、実態に即した支援策の強化が必要です。

地消地産の推進

- ・ 小規模な農家が多く地域の食料安定性および供給体制に課題があることから、流通・販売の仕組みを整え、生産から消費までの循環を強化し、食料の地域内消費を拡大していく必要があります。
- ・ 地場産品の安定供給体制を確立し、公共利用の拡大を持続可能なものとするためには、行政と関係団体が連携し、生産体制を強化する必要があります。

施策の展開

(1) 効率的な生産環境づくり ★LP3-2 産業 プロ

1. 農業基盤の整備・長寿命化を継続するとともに、農地の集積・集約化を推進し、遊休農地・耕作放棄の解消を図ることで、生産性の向上と農業経営の安定化を目指します。
2. 海洋深層水の利活用やスマート農業等を活用し、効率的かつ持続可能な農業の実現を推進します。
3. 高付加価値作物の導入や栽培講習会の開催により生産力を強化し、地域資源を活かした循環型農業と野菜の地産地消を促進します。

(2) 競争力の高い畜産業の推進 産業

1. 肉用牛の販路拡大を図るとともに、徹底した品質・個体の管理、適切な施設の維持管理・機能強化の推進を図ります。
2. 優良繁殖雌牛の導入や、その他方策の検討により、子牛の品質及び価格の向上を図ります。

(3) 農業経営者の育成 産業 農業

1. 農業者への支援体制を整備し、研修会や機械化支援により持続可能な農業生産体制を推進します。

(4) 地消地産の推進 産業 商観 給食

1. 農産物の活用促進や流通体制の整備、食育活動の推進を通じて、地消地産の定着と地域経済の活性化を図ります。

目指そう指標



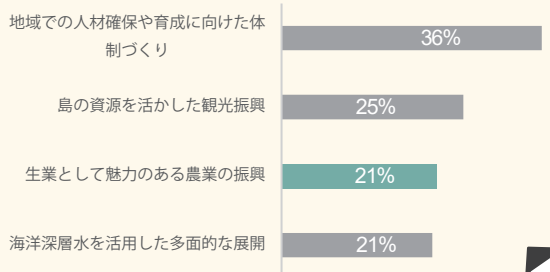
コラム

魅力ある生業としての農業に向けて

アンケートでは、「生業として魅力ある農業の振興」が約2割と、産業振興の中で3番目に多い意見となりました。担い手不足が課題となる中、スマート農業の導入や販路拡大など、「稼げる・働しやすい」環境づくりが求められています。

若者が「やってみたい！」と思えるような、持続可能で力強い農業地域を目指します！

Q. 生業・産業の視点で大切だと思うものを2つ
(対象回答者数445人・複数回答)



《用語解説》

スマート農業
ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）、ロボット技術などの先端技術を活用して、農業の効率化や高品質化を目指す農業のこと。

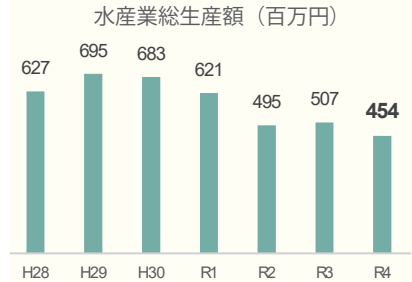
農業ツーリズム
農業体験や農村生活を観光と組み合わせる楽しみ取り組みのこと。都市住民や観光客が農村に訪れ、農業や自然に触れながら地域の文化や暮らしを体験できるようにした観光形態。

多面的な漁業の振興

現状

水産業の拡大と活性化

- ・ 水産加工業では、原料不足や人手・技術の継承不足などが生産体制に影響を与えています。
- ・ 漁業と観光業を組み合わせた遊漁船の運航や漁村体験など、一次産業を観光資源として活用する取組が目立っていますが、事業化には至っていません。
- ・ モズクやアーサといった海藻類は、供給品質を通年維持するための冷凍設備の更新・拡大が求められている。また、漁船の大型化も進んでおり、これに対応するための漁港施設の整備も必要とされています。
- ・ 気候変動などが要因となり、海洋生態系への影響が深刻となっており、サンゴや藻場、貝類の減少など、水産資源の生息環境が悪化しています。



資料：沖縄県市町村民経済計算（沖縄県）

▼写真：せり（競り）の様子



地消地産の推進

- ・ 島内で消費される水産物の割合は低く、モズクをはじめ多くの水産物が島外に出荷されています。地元での流通や消費は限定的であり、地域経済への波及効果が十分に得られていない状況にあります。

課題

水産業の拡大と活性化

- ・ 6次産業化やブランド化を含む体制強化により、生産性向上と付加価値創出を図ることが求められています。
- ・ 異なる産業間をつなぐ統括組織や調整機能が未整備であり、連携の推進が難しい状況にあります。さらに、民間による季節的な仕事に対応するマルチワークの仕組みや就労支援体制の整備も求められています。
- ・ 海藻類の安定供給には、冷凍設備の更新や、設備自体の能力拡大が不可欠です。また、大型化する漁船に対応できる漁港のインフラ整備が追いついておらず、安全かつ効率的な水揚げ・出港体制の確立が急務となっています。
- ・ 水産資源の持続的な利用には、海洋環境の保全と漁場の管理体制の整備が喫緊の課題となっています。
- ・ 海洋深層水を活用した養殖事業も夏場のピーク需要時に供給量が逼迫しており、事業規模の拡大及び新規事業者の参加ができない状況にあります。

地消地産の推進

- ・ 地産地消を促進するためには、農業や観光業、飲食事業者との連携強化に加え、規格外品の活用や住民の購買意欲を高める仕組みづくりが求められています。

《用語解説》

HACCP

ハサップ。NASA（米国航空宇宙局）が宇宙食の衛生管理のために考案した手法で、食品工業やレストランの衛生管理に応用される。

施策の展開

(1) 安定的・持続的な水産業の基盤整備 産業 建設 プロ

1. 冷凍設備等や漁港・海岸施設の定期的な点検・補修・更新を行い、適正な維持管理に努めるとともに、大型化する漁船に対応できる漁港のインフラ整備を検討します。
2. 市場の品質管理基準である HACCP の基準に則り、温度管理や衛生管理を徹底した水産加工施設の管理・運営を推進します。
3. 安定した漁業経営環境の整備を通じて漁業経営者の増加を図り、漁業従事者の育成・確保に努めます。
4. 安定的・持続的な水産業振興のため海洋深層水の活用を推進します。

(2) 漁業生産性の向上 産業 プロ

1. 漁獲量の拡大や有望漁種の開拓、稚魚の放流を推進し、漁場環境の整備等も継続して支援するとともに、モズクやアサ等の養殖体制の強化を促進します。
2. 一本釣り漁業については、久米島漁業協同組合及び漁業者が策定した資源管理計画に基づく管理を推進します。
3. 釣りや遊漁などの観光需要に対応するため、観光業との連携を推進するとともに、需要や販路の拡大に向けた取り組みを推進します。
4. 安定的・持続的な水産養殖のため、海洋深層水の取水量増加に取り組めます。

(3) 地消地産の推進 産業 商観 給食

1. 地元産水産物の活用促進や流通体制の整備、食育活動の推進を通じて、地消地産の定着と地域経済の活性化を図ります。

目指そう指標

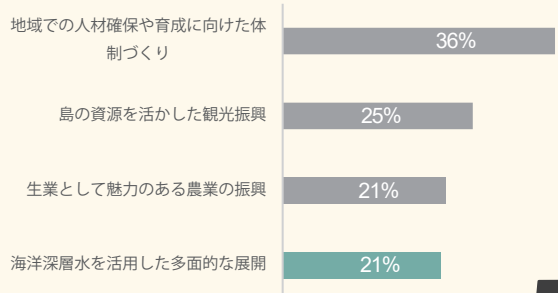


コラム

海の恵みを活かした水産振興に向けて

アンケートでは「海洋深層水の活用」への期待が約2割に達し、農業や観光に次ぐ重要な産業として認識されています！
住民ワークショップでも「車エビや海ぶどうが美味しい」との声が多く、島の宝である水産物はみんなの自慢です。
海洋深層水を活かした養殖の強化や、担い手の確保に取り組み、久米島の海の恵みをさらに輝かせていきます！

Q. 生業・産業の視点で大切だと思うものを2つ
(対象回答者数445人・複数回答)



製造業・複合産業の振興

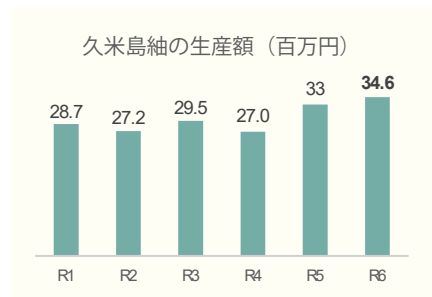
現状

製造業全般

- ・ 島内の製造業就業者数は 255 人とどまり、総生産額も含めて製造業全体は小規模な構造となっています。地域経済における製造業の存在感は限定的であり、他産業に比べて産業規模が小さいのが現状です。
- ・ 製造業を含む第 2 次産業の就業者は全体の 14% とどまり、若年層の従事者が少ないことから、担い手不足や後継者の不在、技能継承の停滞、廃業等が懸念されます。
- ・ 将来的な方向性として、地域資源を活かした産業振興への期待が高まっています。

久米島紬

- ・ 久米島紬では、商品開発により製品の付加価値向上や市場拡大が進み、地域産業としての魅力が高まっています。
- ・ 織子の高齢化等により人材の確保が難しくなっていることに加え、染料の採取も困難となっており、持続可能な生産環境を整える必要があります。



資料：産業振興課統計資料（久米島町）

海洋深層水事業

- ・ 久米島は、国内有数の海洋深層水取水地として、深層水を核とした産業振興・研究開発・観光との融合による地域振興モデルを確立してきており、町では、久米島海洋深層水協議会の運営等を継続的に実施しています。
- ・ 海洋深層水を活用した「複合産業」として、製造業を中心に周辺産業への企業参入や、町内への拠点設置、教育分野への展開等が進んでおり、地域内外から注目を集めています。

課題

製造業全般

- ・ 製造業には一定の雇用創出の可能性のあるものの、担い手の確保や事業継続に向けた魅力づけが不足している状況です。今後、地域経済の多角化や雇用機会の拡大を図るためには、製造業の基盤強化とともに、若者や移住者にとって魅力ある産業としての育成が求められます。
- ・ 製造業を持続可能な地域産業として定着させるための具体的な戦略と支援体制の構築が必要です。

久米島紬

- ・ 持続可能な生産環境の整備と、技術・人材の維持・育成に向けた取り組みが急務となっています。

海洋深層水事業

- ・ 石川県と連携した、海洋深層水事業の規模拡大を検討するとともに、新たな企業誘致や既存の町内産業との連携、更なるブランド化、観光分野への展開等が必要となっています。

《用語解説》

カーボンニュートラル

人間の活動によって排出される二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量と吸収・削減量を合計してゼロにすること。

高度利用型産業クラスター

先端技術・高度知識・高度人材を活用して付加価値の高い産業を集中的に集積させ、地域全体の競争力を高めるための産業集積。企業・研究機関が連携し、革新的な産業の創出を目指すのが特徴。

バイオ分野

生物や生命現象を対象にした科学・技術の領域全般。医療、農業、環境、産業など。

施策の展開

(1) 製造業の振興 ★LP3-2 商観 プロ

- 1. 島での「しごとづくり」に直結するよう、官民が連携し、第2次産業の活性化に努めるとともに、新たな産業創出のため、既存産業とのビジネスマッチングを支援します。

(2) 伝統工芸産業の安定化 商観

- 1. 久米島繊維子全体の技術向上や担い手の育成を図り生産体制の強化に努めるとともに、経営安定を図るための販路拡大や、現代のニーズに合った商品開発を推進します。

(3) 地消地産の推進 ★LP3-2 商観 プロ

- 1. 海洋深層水事業は、国及び沖縄県、また大学等の研究機関や関連機関と連携を図りながら、多面的な活用及び産業展開を推進し、その取り組みを拡大します。
- 2. 医療・健康・再生可能エネルギー・バイオなどの分野における研究・開発・事業化を推進する企業・研究機関の誘致を通じて、クリーンエネルギー（海洋温度差発電など）や水素製造との連携も視野に入れた高度利用型産業クラスターの形成を目指します。
- 3. 久米島産の海洋深層水関連製品（飲料、化粧品、農水産品など）について、既存ブランドの価値向上と発信力の強化を図り、観光地や都市圏、海外市場へのさらなる販路拡大を図ります。
- 4. 海洋深層水事業エリアを観光客や教育機関が見学・体験できるよう整備し、産業・観光・教育が融合するエリアとして相乗効果の創出を促進します。
- 5. 農水産業の持続的活用や、ヘルスケア・ウェルネス産業（スパ、温浴施設等）への展開、資源循環・カーボンニュートラル分野との連動等、海洋深層水の多様な用途開発を検討します。
- 6. 海洋深層水を活用した「久米島モデル」の実現に向け、取水技術の確立と事業化に向けた基盤づくりを進めます。再生可能エネルギーの導入や複合利用を通じて、地域の脱炭素化と新たな産業展開を目指します。
- 7. 農業、水産業、製造業など、各産業における海洋深層水の多段的・複合的有効活用に向け、関連事業エリアの整備と土地利用の方向性を検討し、既存企業と新たな事業者が連携・共存できる体制づくりを推進します。地域の特性を生かした持続的な産業拠点の形成を目指します。

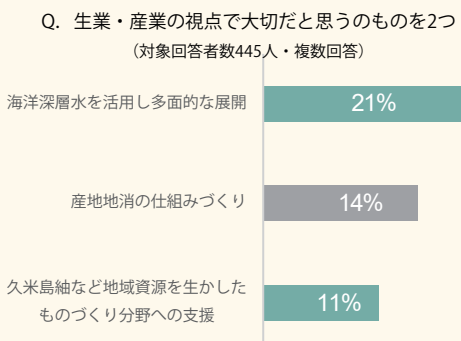
目指そう指標



島の宝を活かす複合産業の推進に向けて

アンケートでは、国の重要無形文化財である「久米島紬」への支援を求める声も根強い一方、約2割の方が「海洋深層水の活用」に期待していることがわかりました。

伝統を守りたい、でも新しい産業で島を盛り上げたい！そんな皆さんの想いを受け止め、紬と海洋深層水を柱とした「複合産業」を推進します。島にある宝を活かして新しい仕事を創り、島の元気を生み出していきます！



商業・観光業の振興

現状

施設整備・利活用の推進

- ・ バーデハウス再生と周辺施設の活性化に向け、PPP 導入を検討し地域価値向上を図っています。
- ・ 奥武島キャンプ場はワーケーション、イーフ情報プラザは MICE 施設での活用を想定しています。

観光コンテンツの充実と交流促進

- ・ 修学旅行向け「島の学校体験プログラム」や、自然・文化・住民とのふれあいを重視したイベントを実施するなど、地域特性を活かした体験型観光資源の磨き上げを進めています。

プロモーション・販路開拓

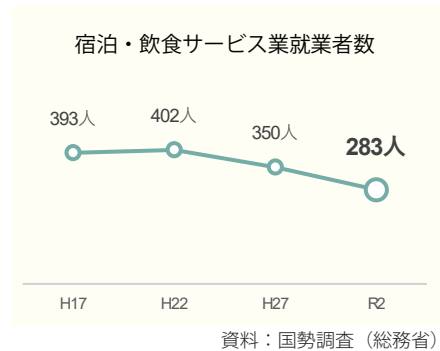
- ・ 物産展・イベント出展やオンラインを活用し広報・販促を展開するとともに、販路の多角化を推進しています。併せて、産業観光や特産品の開発・販促強化へのニーズも高まっています。

受入体制の強化

- ・ インバウンドを含む観光客は増加している一方、来訪者対応や飲食・交通の不足が課題であり、DX 化や多言語対応、マニュアル整備による受入体制の強化が求められています。
- ・ スポーツ誘致では、旅行会社と連携した施設活用と適切な維持管理により、受入体制の質向上を図っています。

組織体制の整備と戦略的推進

- ・ 観光業全体で人材不足が続く中、各産業で観光連携への関心が高まっており、実効性ある連携体制と関係機関の支援体制構築が求められています。
- ・ 第3次観光振興計画により方向性を明確化し、戦略的施策を進める体制を整えるとともに、観光協会やDMOと連携して観光事業者の質向上と地域全体の観光力・発信力強化に取り組んでいます。



課題

観光インフラ・施設の利活用

- ・ 既存観光施設の潜在力を活かすため、未稼働施設の利活用計画策定や、民間活力を活かした運営スキーム構築等、インバウンドやMICE、ワーケーションなど新たな需要に対応する戦略の策定・実行が必要です。

受入体制の強化

- ・ インフラ整備に加え、DX化やマニュアル整備等ソフト面の強化を一体的に進める必要があります。

観光と地域資源・他産業の連携

- ・ 観光と親和性の高い町内産業と連携し、産業観光や商品開発、体験型観光の展開強化が必要です。
- ・ 地域資源を観光資源に転換するため、商品設計・ブランド化・販路戦略などの専門的支援を強化し、持続的な連携モデルを構築する必要があります。

《用語解説》

ワーケーション

日常とは異なる場所に滞在しながら、職場以外の場所で仕事を行うこと。

MICE

企業や団体が行う会議・展示会などのビジネスイベントの総称。

インバウンド

外国人旅行者が日本を訪れる国際観光。

施策の展開

(1) 観光インフラ・施設の利活用促進

★LP1-2

商観

1. バーデハウス、情報プラザ等観光施設の再整備および機能の明確化を通じて、既存施設の再評価と利活用計画を策定し、MICE やワーケーションなど多様化する滞在ニーズに対応した施設整備を推進するとともに、これまでの施策の継続・拡大を図り、民間活力を活かした持続可能な観光施設の利活用を目指します。

(2) 観光受入環境の整備とスマート化

商観

プロ

1. 観光客の増加に対応し、満足度と利便性の向上を図るため、飲食・交通などの受入環境の整備支援や、観光案内・情報発信のデジタル化を通じて、受入体制の質的強化を推進します。
2. 町内の通信環境の整備や施設・観光地の維持管理を進め、ワーケーション対応を含む快適な観光環境の創出を図るとともに、観光満足度の向上と入域観光客数の維持・増加を目指します。

(3) 観光戦略の構築・推進

商観

プロ

1. 観光協会やDMO等と連携し、観光振興計画の推進、人材育成、体験型観光やインバウンド戦略の強化、新規観光大使の申請支援、産業観光の促進を通じて、地域活性化と関係者全体の満足度向上を目指します。
2. 観光入域客数や観光収入といった各種データの詳細な検証・分析を行い、来島観光客の動向を科学的に把握・評価します。

(4) スポーツ・レクリエーション施設の観光活用

★LP1-2

環境

商観

1. 久米島町観光協会と連携し、宿泊確保と効果的なPRにより、観光客が参加しやすいイベントや交流の場を創出します。あわせて、スポーツ施設の利活用を進め、健康増進やスポーツキャンプ誘致の取組を連携させることで、相乗効果による地域活性化を図ります。

目指そう指標

久米島町入域観光客数

基準値 (R2)

88,527 人

基準値 (R12)

150,000 人

飲食・宿泊業総生産額

基準値 (R2)

600 百万円

基準値 (R12)

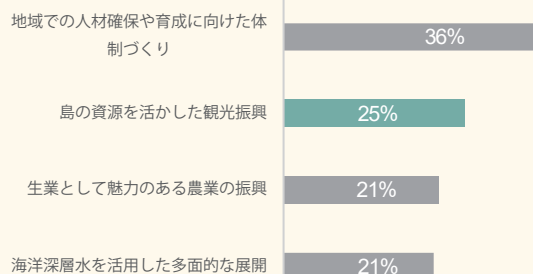
1,300 百万円

コラム

島の資源を活かした観光振興に向けて

アンケートでは、約4人に1人が「島の資源を活かした観光振興」を求めており、産業分野で2番目に多い意見でした。「商業エリアの活性化」への期待も高く、観光客だけでなく、私たち住民もワクワクできるような場所が求められています。久米島の豊かな資源を活かし、訪れる人も暮らす人も楽しめる、活気あふれる島づくりを進めていきます！

Q. 生業・産業の視点で大切だと思うものを2つ
(対象回答者数445人・複数回答)



新しいビジネスの創出

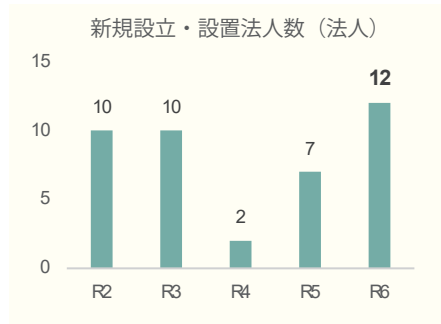
現状

起業・創業支援

- 近年、久米島町において起業を志す人や独自に創業する事業者の数は増加傾向にある一方で、起業希望者や創業者同士、あるいは既存事業者との間における「横のつながり」や「共創の場」が十分に確保されておらず、連携による新たな価値創出が進みにくい状況にあります。

デジタル技術の導入・活用促進

- 離島という地理的制約から、情報やサービス、ビジネス機会へのアクセスが限定されています。
- 地域の事業者の間では、DXやICTの重要性は徐々に認識されつつあるものの、その内容や具体的な導入方法についての理解は必ずしも十分とは言えず、デジタル化の取り組みが進みにくい状況にあります。



資料：税務課統計資料（久米島町）

課題

起業・創業支援

- 起業希望者や創業者同士、あるいは既存事業者等における地域内ネットワークの整備や、共創を促進するための仕組みづくりが求められています。
- 起業や新規事業への挑戦を支える制度的・経済的な仕組みの強化が必要であり、地域資源を活かした持続可能な産業モデルの構築が求められています。

デジタル技術の導入・活用促進

- 地理的制約を克服し、地域の持続的な発展を実現するためには、ICTやDXを活用した新たな仕組みづくりが不可欠です。
- 事業者がDXやICTの導入に取り組めるよう、専門的な知見を持つアドバイザーの配置や、導入後も継続的に伴走支援を行うサポート体制の構築が求められています。

《用語解説》

ワーケーション

「Work（仕事）」と「Vacation（休暇）」を組み合わせた言葉。日常とは異なる場所に滞在しながら、職場以外の場所で仕事を行うこと。

ICT（情報通信技術）

コンピュータやインターネット等を活用し、情報の収集・処理・伝達を行う技術の総称。

DX（デジタルトランスフォーメーション）

デジタル技術で業務やビジネスの仕組みを変革する取り組み。

ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良好な状態を維持し、生活の質や幸福感を高めることを指す。単に病気がない状態ではなく、心身ともに充実し、社会的にも健やかに過ごせることが重視される。

施策の展開

（1）創業支援体制の確立 商観

1. 商工会や金融機関と連携し、創業希望者への相談窓口を設置するなど、新規創業に対する支援体制の強化と確立に努めます。
2. 製造業については、島での「しごとづくり」に直結するよう、官民が連携し、第2次産業の活性化に努めるとともに、新たな産業創出のため、既存産業とのビジネスマッチングを支援します。
3. 起業希望者や創業者同士、あるいは既存事業者等における「横のつながり」を構築できる場を確保し、新しいビジネスの創出や創出しやすい環境の整備を支援します。
4. 在宅ワークやリモートワーク、ワーケーションの受入体制や環境の整備を促進します。

（2）島の特性を活かした新ビジネスの創出 ★LP3-1 ★LP4-2 商観 プロ

1. 久米島ならではの自然環境や文化、地域資源を活かし、地域住民の主体的な参加と外部人材・企業との連携により、新たなビジネスの創出を目指します。観光や農水産業、再生可能エネルギー、教育、ウェルビーイングなど、島の特性を強みに変える持続可能な事業の展開を支援します。

（3）デジタル技術の導入・活用促進 商観 プロ

1. 商工会や地域団体、ICT事業者等と連携し、ICT活用研修や個別支援を提供し、事業者の業務効率と競争力の向上を推進します。

目指そう指標

新規設立・設置法人数

基準値 (R6)

12 法人

基準値 (R12)

15 法人

町内事業者数

基準値 (R6)

530 事業所

基準値 (R12)

590 事業所



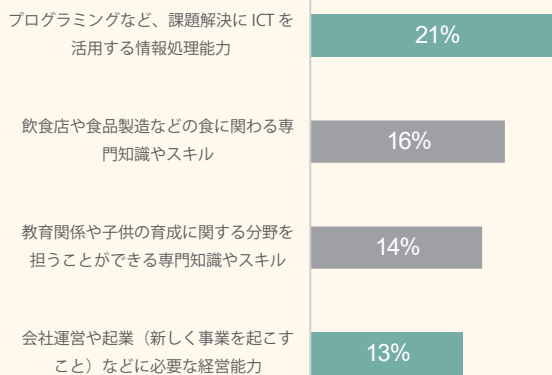
コラム

若者の挑戦を応援する島づくりに向けて

中高生アンケートでは、中高生の約2割が「ICTスキル」や「起業・経営」に関心あり！

未来を担う若者たちは、新しい技術やビジネスに挑戦する意欲を持っています。この可能性を伸ばすため、創業支援やデジタル環境の整備を強化します。島の豊かな資源と新しいアイデアを掛け合わせ、誰もがチャレンジできるワクワクする島を目指します！

Q. 将来に向けて身に付けたい能力・知識3つ
(対象回答者数319人・複数回答)

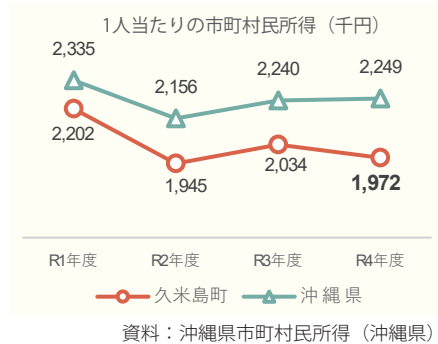


連携する産業振興体制づくり

現状

連携する産業振興体制づくり

- ・観光業をはじめとした各産業分野において、連携の必要性に対する意識は広がりつつあり、地域内での連携の動きが見られるようになってきています。
- ・漁業など季節的な繁閑がみられる産業においては、他産業からの人材受け入れを可能とする「マルチワーク」の仕組みを検討すべきであるという意見が寄せられています。
- ・久米島町の各年度における1人当たり市町村民所得は、令和4年度で1,972千円となっており、沖縄県平均と比べて277千円低い水準となっています。



働きやすい職場環境の整備

- ・地域では少子高齢化が進行し、労働人口の減少により深刻な人手不足が生じている。あらゆる業種で人材確保が難しくなっており、既存の労働力に大きな負担がかかっています。
- ・働き方改革の流れの中で、副業や兼業、テレワーク、フレックス勤務など、柔軟な働き方を選択する人が全国的に増えている。また、AIを含むICTを活用した業務効率化も、段階的に進められています。

未来を見据えた人材確保・育成

- ・島内の児童・生徒を対象に、総合的な学習の時間などを活用して、久米島の仕事や地域課題に対する意識を育む教育を実施し、将来的に地元で貢献できる人材の育成に取り組んでいます。
- ・地域おこし協力隊の受け入れを行うとともに、介護や保育等の専門人材の確保に努めています。地域おこし協力隊は毎年度十数人の隊員が活動する一方、介護・保育等の専門人材の確保が難しくなっています。

課題

連携する産業振興体制づくり

- ・産業間連携を実効性のあるものとするためには、産業横断的な連携体制の構築が十分に進んでおらず、課題やビジョンを共有するための継続的な対話や、その機会の設定が求められています。
- ・マルチワークの推進においては、業種間の調整や労働条件の整備、人材のスキルマッチなど、制度面・運用面での課題が残されており、具体的な仕組みの構築にはさらなる検討と合意形成が必要です。
- ・各産業の活性化や連携を進めながら生産性を高め、一人ひとりの所得を増やし、島全体で稼ぐ力を高めていく必要があります。

働きやすい職場環境の整備

- ・人手不足に対応するためには、働きやすい職場環境の整備や、労働条件の改善が求められます。

未来を見据えた人材確保・育成

- ・介護や保育といった専門職分野は業務の専門性に加え、労働条件、住居の不足等が人材確保を妨げる要因となっており、安定的なサービス提供が難しくなっています。

《用語解説》

マルチワーク

一人の人が複数の仕事や職務、働き方を組み合わせて行う働き方。

AI

人口知能。データを基に学習・推論を行い、人の判断や作業を支援・代替する技術。

ICT (情報通信技術)

コンピュータやインターネット等を活用し、情報の収集・処理等を行う技術の総称。

施策の展開

（1）連携する産業振興体制づくり ★LP3-2 企画 商観 産業

1. 各産業が共通の課題やビジョンを共有できるよう、継続的な対話の場や拠点を設けるとともに、対話の機会を計画的に設定・運営し、連携基盤の強化を図ることで、地域の「稼ぐ力」を引き出す取り組みを推進します。
2. 人材・技術・経験・知識など各産業の強みと課題を共有し、働き方や産業の在り方を検討することで、産業振興と発展に繋がります。
3. 産業間の連携を図り、6次産業化に取り組みます。
4. 島内企業就業者を確保するため、島内企業の魅力発信等に取り組みます。

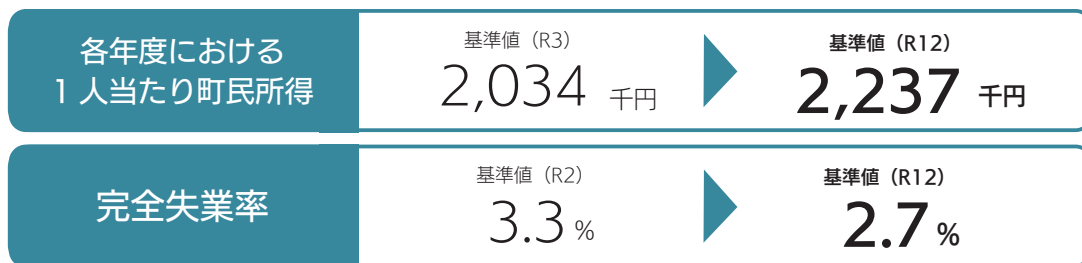
（2）働きやすい職場環境の整備 商観

1. 労働者数を増やすため、雇用関係助成金等の雇用保険関係の周知強化や久米島商工会と連携し事業所への支援強化に取り組み、働きやすい環境の整備に努めます。
2. 就労の場面で多様な住民が輝けるよう、副業や兼業、テレワーク、フレックス勤務など、柔軟な働き方を選択できるように、各企業への働きやすい環境づくりを促進・支援し、多様な働き方が実現できる島づくりを推進します。

（3）未来を見据えた人材確保・育成 ★LP2-1 ★LP3-1 商観 企画 プロ 議会 福祉 教育

1. 子どもたちの地域理解やキャリア意識を育み、地域産業や環境学習を通じて将来島に貢献できる人材の育成を推進します。
2. 専門職や福祉・保育分野の人材に加え、国際人材やデジタル人材の確保・育成に向け、研修や支援制度の充実を図るとともに、人材バンクや地域おこし協力隊の活用を検討します。

目指そう指標



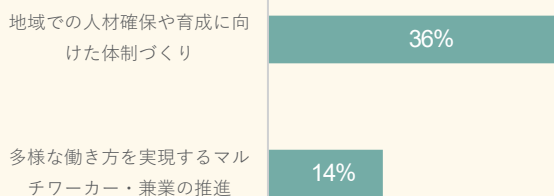
コラム

みんなで支え合う産業のかたちに向けて

アンケートでは、産業振興において「人材の確保・育成」を求める声が多く挙がりました。人手不足への不安から、約14%の方が「マルチワーク（季節や繋閑に合わせた掛け持ち）」などの柔軟な働き方に期待を寄せています。

産業の垣根を越えて連携し、みんなで助け合いながら、安定して稼げる・働ける島を目指します！

Q. 生業・産業の視点で大切だと思うものを2つ
(対象回答者数445人・複数回答)



(ここに写真が入ります。)

自然・環境の基本施策

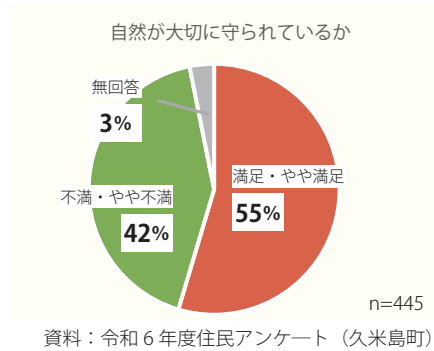
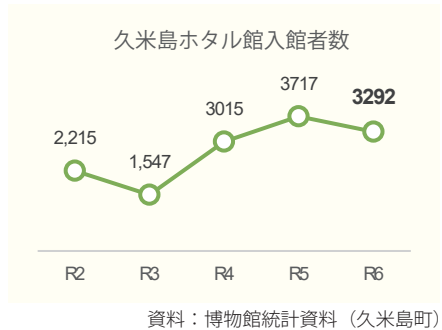
美しい景観・自然と共生する島づくり

島の豊かな自然資源の保護・活用

現状

島の豊かな自然資源の保護・活用

- ・ 陸域からの赤土の流出や漂流ごみの増加、また公共下水道の未整備地域が存在することなどの問題が、海洋環境に悪影響を及ぼしています。
- ・ クメノサクラをはじめとする動植物の密猟が発生しています。
- ・ 久米島ホテル館では、町民や観光客を対象に、クメジマボタルなどの希少種や生息環境についての周知・保全活動を行っており、学校での体験学習も実施しています。
- ・ 住民意向において、自然・環境の視点で大切だと思うこととして「島の豊かな自然資源の保護・活用」が最も多く挙げられており、自然資源を将来にわたって守りながら活かしていく取組の推進について、住民の期待は高い状況にあります。



課題

島の豊かな自然資源の保護・活用

- ・ 海洋環境の悪化に対しては、環境技術の導入等を含む早急な対応が求められており、行政だけでなく地域住民や民間事業者の協力のもと、持続可能な海洋環境の保全と再生に向けた総合的な取り組みが必要となっています。
- ・ 自然保護に向けた意識向上、ルール整備、啓発活動の強化が課題です。
- ・ 地域住民及び観光客のポイ捨て防止や適切なゴミの処理が求められます。
- ・ 今後は、久米島ホテル館を自然学習の場としてさらに活用し、久米島の生物多様性を「見せる」仕組みを整え、地域学習や観光への活用を図ることが求められています。

▼ 写真：クメジマボタル（県指定天然記念物）



▼ 写真：比屋定パンタからの景色



施策の展開

（1）自然環境及び希少動植物の保全と活用 ★LP2-1 ★LP3-1 ★LP5-1 環境 博物

- クメジマホテルをはじめ文化財保護法や種の保存法に基づく動植物の保護、生物多様性の保護の取り組みを強化し、天然記念物の保全に努めるとともに、久米島ホテル館は自然学習の場として活用し、久米島の生物多様性を「見せる」仕組みを整え、地域学習や観光への活用を図ります。
- 久米島の野生動植物の不法採取の取り締まりを強化し、保護に努めます。
- 自然環境保全法や自然公園法など、関連する法令と連動しながら、島の豊かな自然の積極的な保全と育成を推進します。

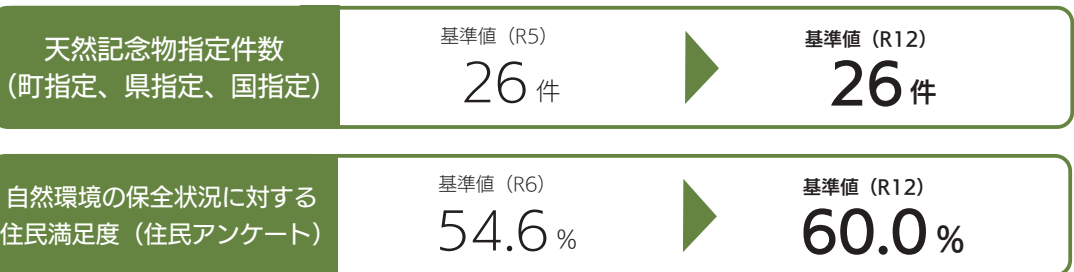
（2）赤土流出を防ぐ取組の推進 産業 建設

- 赤土等の耕土流出防止に向け、持続的な対策を推進します。
- 沈砂池や排水路の整備を行い、赤土流出防止対策を推進します。

（3）自然保護の普及と理解促進 環境 博物

- 指定管理団体やボランティア団体と連携等を、町民の環境保全の意識向上に努めます。
- 町民の美化意識の向上に努めます。
- 良好な自然環境を守るため、町民や観光協会、民間事業者等と連携し、海岸への漂着ゴミ対策に努めます。

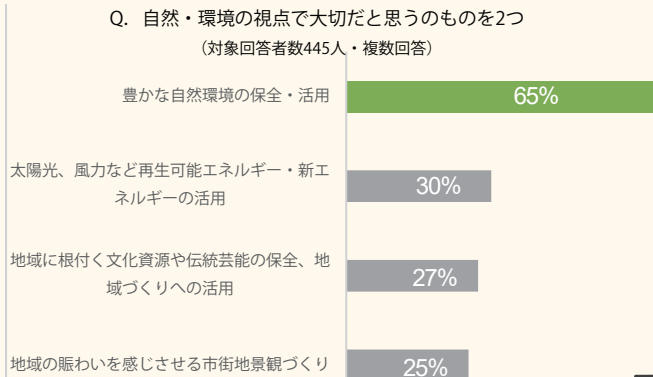
目指そう指標



コラム

豊かな自然の保全と活用に向けて

アンケートでは、これからの産業を考える上で「豊かな自然の保全・活用」を重視する声が約 65% と圧倒的多数でした！美しい海や星空はみんなの自慢ですが、赤土やゴミ問題には心配の声も。島の宝である自然を守ることはもちろん、環境学習や観光への活用も進めながら、未来へ誇れる美しい久米島をみんなで残していきましょう！



伝統文化の継承と文化遺産の保護・活用

現状

文化・歴史資源の保護・活用

- ・ 久米島には、久米島紬や沖縄角力、名勝や城跡など、多様な文化資源があります。これらは、地域の歴史や風土を反映した貴重な遺産であり、地域住民の誇りやアイデンティティを象徴する存在となっています。また、観光資源としての活用可能性も高いと考えられます。
- ・ 久米島における歴史や文化資源は、地域の特色や魅力を形成する重要な要素であるにもかかわらず、その活用は十分とはいえない状況です。観光や地域経済との連携も限定的であり、文化資源が持つ潜在的な価値が活かしきれない状況にあります。

登録・指定	種別	件数
天然記念物	国指定	5
	県指定	5
	町指定	13
史跡	国指定	2
	県指定	4
	町指定	21
重要文化財建造物	国指定	2
有形文化財建造物	県指定	1
	町指定	1
名勝	町指定	5
無形文化財工芸技術	国指定	1
有形文化財（工芸品）	県指定	1
有形文化財絵画	県指定	1
有形文化財歴史資料	県指定	1
	町指定	3
有形文化財考古資料	町指定	1
有形民俗文化財	町指定	1

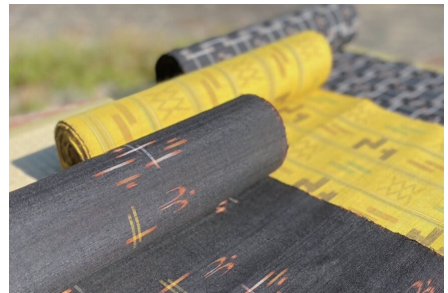
資料：町の文化財（久米島町公式HP）
※ 2026年2月時点

課題

文化・歴史資源の保護・活用

- ・ 久米島の文化資源は貴重な遺産であるものの、保存と活用への取り組みが地域ごとに差があり、全体的に十分に進んでいません。今後は、文化資源の効果的な保存、まちづくりや地域活動、観光コンテンツとしての活用を促進するため、住民の理解を深め、地域全体で連携した体制づくりが求められます。
- ・ 文化資源を地域振興の原動力として位置づけ、観光や産業と有機的に連動させる戦略的な取り組みが求められています。単発的なイベントや保存活動にとどまらず、文化資源を核とした持続可能な観光・産業モデルの構築が、今後の大きな課題です。
- ・ 伝統文化の担い手不足に対応するため、次世代育成と若年層の関心醸成、世代間交流の促進が必要です。

▼ 写真：久米島紬（国指定重要無形文化財）



▼ 写真：宇江城城跡



施策の展開

(1) 歴史、民俗、文化財等の調査・研究の拡充 ★LP2-1 博物館

1. 引き続き、様々な文化遺産の適正な保存・活用に努めます。
2. 学芸員や外部の研究機関・研究者と連携し、調査・研究を推進します。
3. 久米島の歴史文化の周知を図るとともに、久米島町史の編纂等を通し、久米島町の記録を後世へ伝えることに努めます。
4. 博物館を活用し、様々な企画展の開催や常設展示の更新などを通して生涯学習機会の提供に努めます。

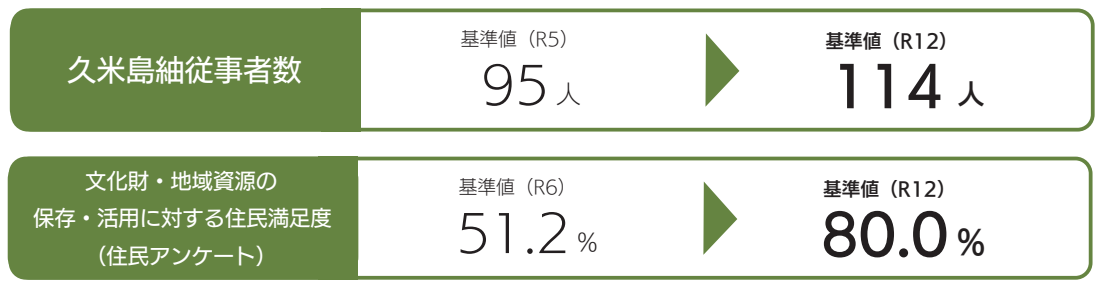
(2) 伝統文化の保存・継承の推進 ★LP1-2 ★LP2-1 博物館 商観 教育 産業

1. 大綱曳きの大綱の確保など、継続して開催するための体制づくりに努めます。
2. 久米島紬（国指定重要無形文化財）の技術保存と継承、新たな価値を生み出す活用、普及啓発・魅力発信を積極的に推進します。

(3) 文化資源の保存と活用の促進 ★LP4-1 博物館 建設 商観

1. 久米島町の自然・文化資源を保全・継承し、活用する取り組みを検討します。
2. 島内に所在する史跡や遺跡、建造物などの保存及び活用を推進します。
3. 指定文化財の管理を継続し、き損を防止しつつ美観維持に努めます。
4. 地域の歴史・文化の継承を図るため、古文書の修復に努めます。
5. 沖縄角力等、地域文化の保存・継承に努めます。
6. 地域に点在する文化資源を「地域らしさ」を特徴づけるものとして保全し、価値の高い資源については、文化財指定または登録を検討します。

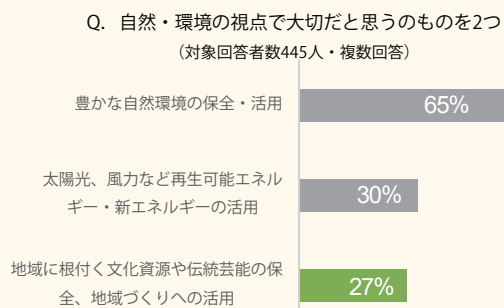
目指そう指標



コラム

文化資源の保全と活用に向けて

アンケートでは、約3割の方が「文化資源の保全と活用」を大切だと考えています。久米島紬や沖縄角力、城跡などは、私たちの誇るべき「久米島らしさ」ですよ。こうした宝物を守るだけでなく、地域づくりや観光にもっと活かしてほしいという期待も高まっています。伝統を大切にしながら、新しい価値も生み出し、未来へつないでいきましょう！



施策 14

自然・環境の基本目標 | 美しい景観・自然と共生する島づくり

久米島らしい景観づくりの推進

現状

景観形成・誘導

- ・ 久米島では、近代的な建物の建設、老朽化した家屋の建て替えや道路整備、フクギ並木の伐採等が進んでいます。これらの変化は、地域の暮らしの質を向上させる一方で、久米島の伝統的な街並みや自然と調和した景観が徐々に失われつつあります。
- ・ 久米島らしい景観づくりについては、地域と行政の連携による景観形成、美化活動が必要となります。
- ・ 子や孫世代、さらにその先の世代へ素晴らしい久米島の景観を継承するために、持続可能なライフスタイル・ビジネスモデルの検討が必要となります。

▼ 写真：フクギ並木（真謝）



▼ 写真：久米島町内の景観形成の取組状況



課題

景観形成・誘導

- ・ 島内の景観の変化により、かつて地域に深く根付いていた「久米島らしさ」や、独自の景観・文化的アイデンティティが見えづらくなってきており、地域の魅力の低下や、住民の郷土意識の希薄化につながる懸念があります。今後は、機能的な住環境整備と地域の歴史や文化を尊重した景観の保全・再生の両立が重要な課題となっています。
- ・ 緑化・美化活動は、住民やボランティア等の協力により維持されていますが、継続的な活動を支える仕組みや、観光資源としての眺望景観（視点場等）の適切な維持管理が必要です。

施策の展開

（１）島の特性を活かした景観形成と誘導の仕組みづくり ★LP4-1 建設

1. 伝統的な集落景観を有する地域の景観保全を図ります。
2. 久米島の風景を守るため、地域特性に応じた景観形成基準の見直しを行い、景観計画の改定を検討します。建物や広告物の基準を定め、島全体で共有・実践できる体制を整え、景観に対する意識を醸成します。
3. 宇江城城跡や登武那覇城跡、比屋定バンタなど、良好な眺望景観が得られる視点場については、久米島の地域資源、観光資源として有効な活用を推進します。
4. 伝統的景観を有する集落や賑わいを創出する商店街など、久米島らしい景観を有する場所について、重点的な景観形成を推進します。
5. 住民が主体となる景観づくり及び美化活動への支援制度の確立を図ります。

目指そう指標

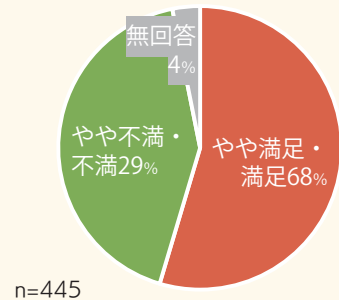


コラム

みんなでつくる美しい島の風景に向けて

アンケートでは、約7割の方が「自慢できる景観がある」と答える一方、「道路や標識をきれいに」「空き家が寂しい」といった改善を求める声も3割近くありました。美しい海や緑だけでなく、私たちが暮らす集落や通りの風景も大切な「久米島らしさ」です。花いっぱい運動や清掃活動など、みんなの手で島を美しく彩り、誇れる景観を守り育てていきましょう！

Q. 自慢できるまちなみ景観がある



施策 15

自然・環境の基本目標 | 美しい景観・自然と共生する島づくり

再生可能エネルギーによる自給率向上

現状

再生可能エネルギー・環境負荷低減

- ・ 太陽光発電やバイオマス発電などの再生可能エネルギーに対する期待は高まっているものの、町内での導入事例はまだ限定的です。
- ・ 世界でも数少ない海洋温度差発電（OTEC）実証設備が稼働しており、深層水の多段利用（車海老養殖、農業等）を組み合わせた「久米島モデル」は国内外から高く評価されています。

▼ 写真：海洋温度差発電（OTEC）実証設備

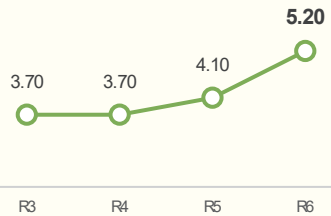


課題

再生可能エネルギー・環境負荷低減

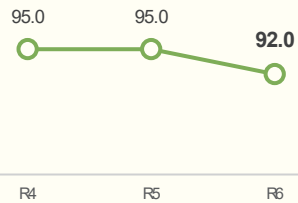
- ・ 地域資源を活かした地産地消型のエネルギー自立に向けた取り組みを継続・拡大し、地域の特性を生かしたエネルギーの自給自足を目指す必要があります。
- ・ 省エネルギーや再生可能エネルギーの利用など、環境に配慮した取組に対する住民の理解や動機づけが十分でないため、その普及促進に向けた意識向上が求められています。

再生可能エネルギー自給率 (%)



資料：プロジェクト統計資料（久米島町）

CO2 排出量削減率 (%)



資料：プロジェクト統計資料（久米島町）

施策の展開

(1) クリーンエネルギーの導入 ★LP5-2 プロ 環境

1. 海洋温度差発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入を促進します。
2. 脱炭素社会を目指し、公共施設等への省エネ設備の導入・太陽光発電設備設置、公用車のEV化の推進に加え、EV導入に伴うメンテナンス体制の充実を図ります。
3. 小中学校へのエネルギー教室を通じて、児童生徒、各家庭、町民への省エネルギーへの普及・啓発を推進します。
4. 久米島町エネルギービジョン2020に基づき、引き続き地球温暖化対策を推進します

目指そう指標

再生可能エネルギー自給率

基準値 (R5)

4.1%



基準値 (R12)

20.2%

公用車のEV化台数

基準値 (R7)

0台



基準値 (R12)

3台

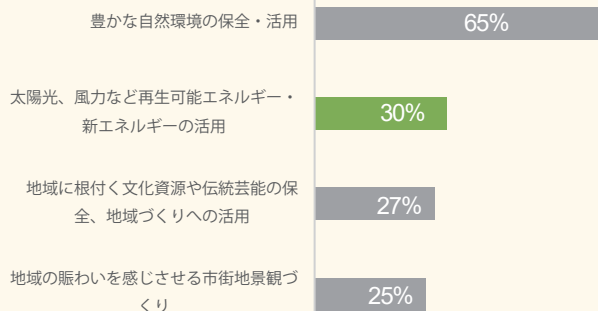


コラム

クリーンエネルギーの活用推進に向けて

アンケートでは、自然環境の保全に次いで「再生可能エネルギーの活用」を求める声が約3割と高く、環境への関心の高さがうかがえます。一方で、実際の導入はまだこれから。太陽光や海洋温度差発電など、島の資源を活かしたクリーンなエネルギーで、自分たちの使う電気は自分たちで作る「エネルギーの地産地消」を進め、環境にやさしい持続可能な島を目指しましょう！

Q. 自然・環境の視点で大切だと思うものを2つ
(対象回答者数445人・複数回答)



《用語解説》

海洋温度差発電 (OTEC) 実証設備
表層の温かい海水と深層の冷たい海水の温度差を利用して発電を行う設備です。

久米島モデル
海洋深層水を単一の目的（養殖のみ、飲料のみなど）で使うのではなく、「エネルギー利用（発電・冷房）」から「産業利用（農業・水産）」まで、段階的かつ複合的に活用する循環型社会モデルのことです。

久米島エネルギービジョン2020
2020年に久米島町が策定した、島のエネルギー自給自足と脱炭素化を目指すための中長期的な指針です。

EV (Electric Vehicle)
電気をエネルギー源とし、モーターを動かして走行する「電気自動車」のことです。

クリーンエネルギー
二酸化炭素 (CO2) や窒素酸化物 (NOx) などの有害物質を排出しない、または排出量が極めて少ないエネルギーの総称です。太陽光、風力、水力、地熱、そして久米島が注力する海洋温度差発電などが含まれます。

(ここに写真が入ります。)

統合・調和の基本施策

時代の変化を捉え、個性が輝く島づくり

移住定住の促進と関係人口の拡大

現状

交流文化の推進

- ・ 町民参加および島外の方との交流を目的として、イベントを開催しています。
- ・ 新潟県十日町市や佐賀県佐賀市、伊万里市との地域間交流に加え、ハワイ郡コナ地区とは海洋深層水・海洋温度差発電関連での国際交流も実施しています。
- ・ 産官学連携による OTEC200kW 熱交換器の実証実験やサーモン養殖研究など、多様な技術交流事業を実施しています。

移住・定住支援体制の整備

- ・ 地域に定着するためには、「住まい」、「地域との関係づくり」、「しごと」をセットで支援することが重要との意見があり、ワンストップ相談窓口を設置し、取り組んでいます。
- ・ 空き家問題が深刻化しており、解体・改修費用の支援に取り組んでいます。空き家の適切な管理や活用が十分に進んでいるとは言えない状況です。
- ・ 住民生活の維持に不可欠な医療、福祉、保育を担う人材受け入れのための定住住宅整備に取り組んでいます。

交流人口の受入・関係人口の創出

- ・ 修学旅行や合宿、イベントを通じて一定数の来訪者が久米島を訪れ、地域交流の機会が確保されています。
- ・ 久米島ファンクラブの活動との連携に取り組んでいます。

課題

交流文化の推進

- ・ 現在の取組を継続・強化し、交流人口を増やして地域活性化・産業振興につなげることが求められます。

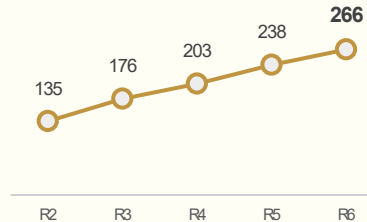
移住・定住支援体制の整備

- ・ 島外出身者・移住希望者の定住促進では、生活環境や雇用、地域とのつながりを整備し、ハード（住まい）・ソフト（仕事や地域との関係づくり）の両面で安心して暮らせる支援体制を強化することが必要です。
- ・ 中高生の将来の U ターンでは、就労・住居・子育てなどの生活基盤を整備するなど、受け皿の充実が課題です。
- ・ 空き家対策では、所有者の協力確保や解体・改修費用の負担軽減など、支援体制や制度の整備が求められます。

交流人口の受入・関係人口の創出

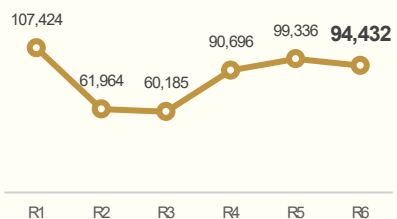
- ・ 来訪者の多くが一過性の交流にとどまるため、リピーターや関係・定住人口への発展が課題となっており、観光だけでなく地域活動や暮らしに根ざした体験を通じて継続的に関わるための多様な受け皿の整備が必要です。

町の支援による移住者数(人)



資料：企画財政課統計資料（久米島町）

交流人口(人)



資料：企画財政課統計資料（久米島町）

《用語解説》

交流人口

観光、レジャー、業務等の目的で、一時的に訪れる人の数を指します。

関係人口

特定の地域と継続的かつ多様に関わる人々のことを指します。

定住人口

その地域に実際に住み、住民票を置いている人々のことです。

施策の展開

（1）技術交流等事業の拡充 産業 プロ

1. 大学・研究機関と連携し、久米島での技術研究・開発を支援する施設の導入・誘致の可能性を調査します。
2. 関係団体と連携を図り、外国人技能実習生の受入体制の構築を図ります。
3. 地域特性を活かした産業と人材の育成につながる技術交流を推進します。

（2）移住・定住の促進 ★LP5-1 企画 商観 福祉

1. 久米島へ移住・Uターンを検討している人を対象に仕事・くらし・住まいの情報発信を推進します。
2. 久米島の魅力を各種メディアや県内外のイベントを通じて発信し、久米島町の認知度向上に努めます。
3. 移住・定住促進に向け、空き家・空き店舗の利活用に取り組むなど、住宅不足の解消に努めます。
4. 空き家・空き店舗の解消は、住宅不足の解消だけでなく、景観や地域魅力の向上、安全・住環境の改善にもつながり、移住・定住促進の重要な取組として、今後さらに強化します。
5. 働く場所の確保のため、経済団体や医療・福祉団体、民間企業と連携して求人情報を発信します。

（3）交流人口の拡大 ★LP1-2 ★LP2-2 ★LP4-2 総務

1. 交流機会の創出に資するイベントの継続的な開催を推進します。
2. 久米島出身者ネットワークを活かした産業と人材の育成につながる交流や、郷友会との連携等を推進し、様々なイベントに参加する町民の増加を目指します。
3. 久米島ファンクラブの取り組みは、関係人口の創出が図られることから、連携強化に努めます。
4. 県外の児童・生徒等との交流会を継続して実施します。
5. 久米島ファンを増やすために、HP・SNS等を用いて情報発信を行い、久米島ファンクラブ等の交流人口の増加に努めます。

目指そう指標

町の支援による
移住者数（累計）

基準値（R6）

286人

基準値（R12）

416人

交流人口

基準値（R6）

99,301人

基準値（R12）

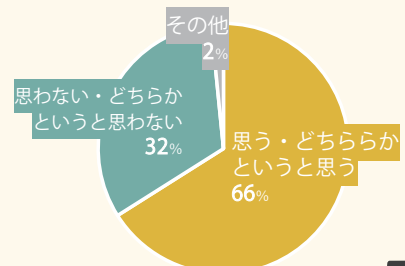
124,410人

コラム

住みたい・戻りたいを叶える島づくりに向けて

アンケートでは、住民の約75%が「住み続けたい」、中学生の約65%が「将来戻りたい」と答えています！
島を愛する声が多い一方で、「働く場所」や「住まい」への不安があるのも事実。皆さんが安心して住み続けられる、そしていつか帰ってこられるよう、空き家の活用や仕事情報の発信、島内外の人々との交流機会の創出など、「おかえり」と温かく迎えられる環境を整えていきます！

Q. 島を一度離れても戻りたいですか

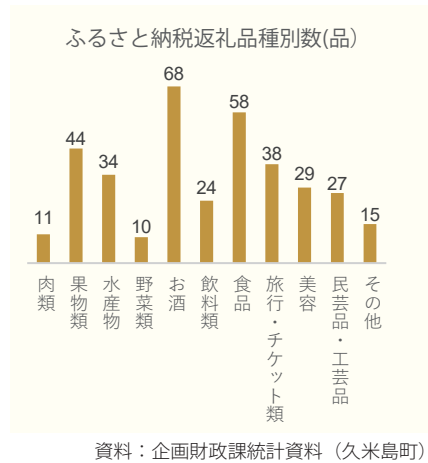


久米島らしいブランドの確立

現状

地域資源を活かしたブランド戦略の構築

- ・久米島は豊かな自然、文化、暮らし、人々のつながりなど多様な魅力を持つが、それらの価値が住民に十分に共有されておらず、ふるさと納税返礼品など外部への発信も限定的で、統一感に欠けている状況です。
- ・地域資源を持続可能な形で価値化するためには、商品開発、ブランド設計、販路開拓などにおける専門的な支援が不可欠であるが、その体制が十分に整っていない状況です。
- ・特産品や食資源を活かした新たな価値創出への期待が高まる中、一部では観光・飲食事業者による取り組みが見られるものの、島全体としてブランド戦略への参画は限定的な状況です。
- ・水産業や農業など地域の基幹産業には、観光や商品開発と連携したブランド展開の可能性はあるが、取り組みはまだ限定的です。



課題

地域資源を活かしたブランド戦略の構築

- ・地域資源を「誇り」として内面化しつつ、外部へ一貫したメッセージとして発信するためのブランディングの枠組みが未整備です。住民と外部の視点をつなぎ、島全体で魅力を再定義・共有する戦略づくりが求められています。
- ・専門的な知見を活かしたブランド戦略と、それを推進するための支援体制の構築が求められています。
- ・魅力ある商品開発や販促強化に加え、産業観光やマリレジャーなど他分野との融合的な展開が重要であり、その実現に向けて分野横断的な連携体制の構築が求められています。
- ・地域資源のブランド戦略構築を推進するとともに、ふるさと納税返礼品の拡充・商品開発を図り、産業振興や地域活性化、ふるさとの納税額向上につなげていく必要があります。

▼写真：タイムスフェア（物産展）



▼写真：車海老（ふるさと納税返礼品）



施策の展開

(1) 久米島らしいブランド価値の創出と発信 ★LP4-2 企画 商観

1. 久米島に息づく自然・文化・歴史、食、人々の営みを「久米島らしさ」として言語化・視覚化し、地域住民や関係団体と協働してブランドコンセプトを再定義します。「久米島らしい暮らし」や「ここにしかない体験」をテーマにストーリーを発信することで、来訪者の関心を高めるとともに、島内住民の誇りの醸成にもつなげます。
2. 久米島紬や島食材、伝統行事、民話などを活用し、地域の特色を活かした商品・サービスの磨き上げと統一ブランド化を進めます。各産業が連携し、地域資源の付加価値向上と販路拡大に向けた共同プロモーション展開を推進します。
3. 特産品等のイメージや安全性などの評価水準の向上により、付加価値を高め、全国への販路拡大を推進します。

目指そう指標

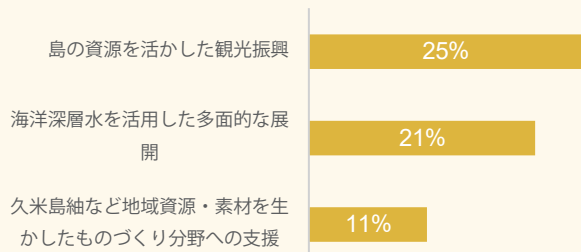


コラム

久米島ブランドのさらなる飛躍に向けて

アンケートでは、「島外への情報発信」や「特産品のPR強化」を求める声が多く寄せられています。「久米島紬」や「車エビ」、そして「豊かな自然」など、世界に誇れる久米島ブランドは私たちの宝物。これらの魅力をさらに磨き上げ、ふるさと納税や観光とも連携しながら、自信を持って島の価値を世界へ届けて行きましょう！

Q. 生業・産業の視点で大切だと思うものを2つ
(対象回答者数445人・複数回答)

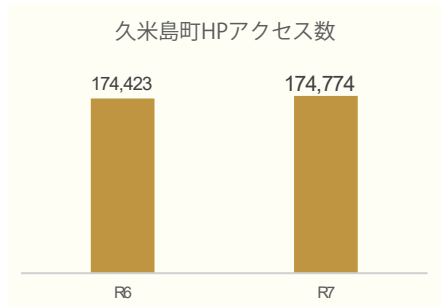


情報発信力の強化

現状

情報発信

- ・ 久米島町 HP、広報誌、ラジオ、SNS、防災無線等、複数のチャンネルを利用し、町の取り組みやまちづくり計画、財政情報等に関する発信を行っています。
- ・ 防災無線の点検や、災害用 Wi-Fi アクセスポイント再整備等、非常時の情報発信設備の維持管理を実施しています。
- ・ 町外および広域メディアに対する戦略的な情報発信の仕組みが十分に整っておらず、久米島の魅力が外部へ十分に伝わりきれていない現状があります。



資料：総務課統計資料（久米島町）

課題

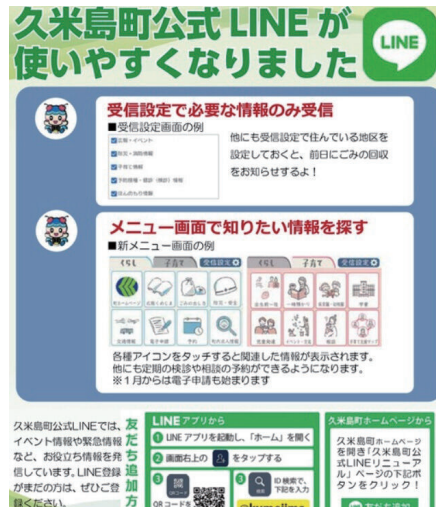
情報発信

- ・ 情報発信チャンネルのうち、SNS（公式 LINE）については、今後の有効活用の検討が課題である。特に、アンケート機能等、双方向性の情報発信が可能となるため、活用が期待されています。
- ・ 歴史・文化に関する資料や地域資源の情報資産については、デジタル化が進められているものの、広範な利活用に向けては、さらなる整理や共有の工夫が求められています。
- ・ 町外および広域メディアに対する情報発信については、対象や目的を意識した情報整理に加え、継続的かつ戦略的に発信していくための仕組みづくりが求められています。

▼ 写真：広報くめじま（久米島町）



▼ 写真：久米島町公式 LINE の案内（久米島町）



施策の展開

（１）行政情報システムの充実 総務

1. 透明性の高い町政情報の発信、ホームページの情報更新に努めます。
2. FM くめじまと連携して積極的に町の情報発信に努めます。
3. 必要な情報を必要な人へ、必要な時に届ける仕組みを検討します。
4. 行政が保有する歴史・文化等の情報資産について、多分野で活用しやすいよう電子化をさらに推進し、効果的な情報提供の仕組みを構築します。

（２）情報化社会に対応する島づくり ★LP5-2 総務 商観 プロ

1. テレビのデータ放送を活用し、町民への情報発信に努めます。
2. SNS を活用した情報発信が好評であり、行政のデジタル化と併せて、効率的・効果的な運用に努めます。
3. 台風や万が一の自然災害に備え、情報の収集・発信に関する防災訓練に取り組みます。
4. 防災・観光・教育の観点から必要箇所への Wi-Fi の整備や情報化社会に対応するインフラの整備に努めます。
5. 防災無線の日常管理及びメンテナンスを徹底します。
6. 久米島の魅力を効果的に伝えるため、ターゲットに応じた情報発信や外部メディア等との連携を強化し、戦略的な広報活動を展開します。

目指そう指標

久米島町ホームページ
アクセス数

基準値 (R7)

174,774 件



基準値 (R12)

192,250 件

久米島町公式 LINE
登録者数

基準値 (R7)

4,653 人



基準値 (R12)

5,120 人



コラム

情報がしっかり伝わる島づくりに向けて

子育て世帯からは「支援情報に気づけない」といった切実な声が届いています。アンケートでも、行政サービスのデジタル化に満足している方は約 2 割。この現状を変えるため、公式 LINE などの「プッシュ型」発信を強化します！忙しい毎日の中でも、大切な情報が手のひらに届く。

誰もが便利で分かりやすい、情報がしっかりと「伝わる」島づくりを進めていきます！

Q. 行政サービスのデジタル化が進んでいる



Q. 生活でデジタルサービスを利用しやすい



■ 満足・やや満足 ■ 不満・やや不満 ■ 無回答

住民にわかりやすく効率的な行財政運営

現状

効率的な行財政運営

- ・ LINE によるオンライン申請や、証明書等のコンビニ交付等、窓口業務の利便性向上に取り組んでいます。
- ・ 申請・窓口対応件数が多く、職員の日常業務の負担となっています。
- ・ 申請書類の入カミスや確認作業が多発しており、修正・確認に手間がかかっています。
- ・ 紙書類の管理や集計作業の非効率さ、業務の属人化により、業務全体の効率が低下し、担当者の負担が増加しています。
- ・ 行政 DX に関する研修・人材育成等が始まっており、今後の業務効率化や QOL の向上が、庁内職員から期待されています。

持続可能な行財政運営

- ・ 社会情勢に伴う物価高騰や人口減少、施設の老朽化などにより、厳しい財政状況が続いています。

《用語解説》

経常一般財源充当額

毎年度継続して支出される経費に対し、使途が特定されていない財源をどれだけ充てたかを示す決算額。

【ざっくり解説】

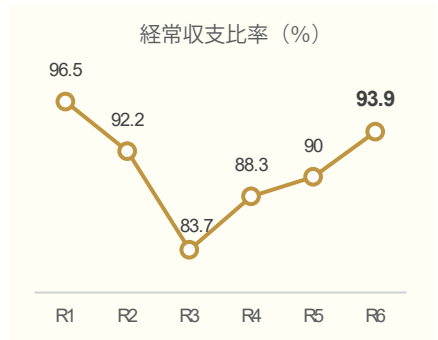
「自治体の手持ちのお金から支払った、毎月の『固定費』の総額」です。

経常収支比率の推移

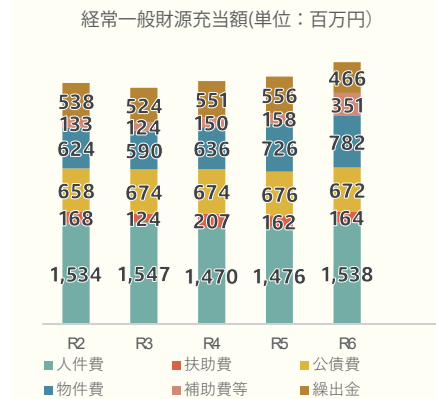
経常的な一般財源が、人件費や公債費などの経常的経費にどの程度費やされているかを割合で表したものです。

【ざっくり解説】

「お給料の何%が固定費で消えているか、その『変化』」のことです。



資料：沖縄県市町村概要（沖縄県）



資料：沖縄県市町村概要（沖縄県）

課題

効率的な行財政運営

- ・ 証明書のコンビニ交付やオンライン手続きの強化・構築など、自治体窓口 DX を推進し、窓口での住民負担および職員の業務負担のさらなる軽減に取り組む必要があります。
- ・ 行政 DX にむけては、デジタル人材の確保・育成、デジタル環境の強化・充実に取り組む必要があります。
- ・ 情報資産の電子化、ナレッジマネジメント、行政プラットフォームを構築するなど、円滑な業務環境を構築する必要があります。

持続可能な行財政運営

- ・ 中期財政計画、財政指標を参考に、財源の確保や事務事業の見直しに取り組んでいく必要があります。

《用語解説》

行政プラットフォーム

行政サービスをデジタル上で効率的に提供・連携するための基盤や仕組みのこと。

デジタルリテラシー

デジタル技術や情報を正しく理解・活用できる能力のこと。

ナレッジマネジメント

組織の知識や情報を体系的に管理・活用して、成果や競争力を高める取り組みのこと。

施策の展開

(1) 職員業務の効率化 企画 税務

1. 証明書のコンビニ交付やオンライン手続きの強化・構築など、自治体窓口 DX を推進し、窓口での住民負担および職員の業務負担のさらなる軽減に取り組む必要があります。
2. 町税や使用料等について、スマホ決済サービスなどの運用を引き続き行い、徴収率の向上及び利便性の確保に努めます。
3. 情報資産の電子化やナレッジマネジメント、行政プラットフォームの構築に加え、職員のデジタルリテラシーの確保・向上など、行政 DX を推進します。

(2) 持続的な行政サービスの提供 企画 町民 総務

1. 法定事務に遵守した登録・管理を行い、適切な対応に努めるとともに、住民サービス、満足度の向上を目指します。
2. 持続可能で、安定的な財政基盤の維持・推進に努めます。また、統一的な基準による財務書類を作成し、住民へ分かりやすく、見やすい決算の公表に努めます。
3. 町有地の適正管理を行い、産業などへの利活用を推進します。
4. 久米島町公共施設等総合管理計画のもと、公共施設の適切な配置を図ります。
5. 満足度の高い行政サービスの向上を図るとともに、個人情報を含む情報資産の保護を徹底します。

目指そう指標

経常収支比率

基準値 (R6)

93.8 %



基準値 (R12)

89.2 %

町税徴収率

基準値 (R6)

96.7 %



基準値 (R12)

97.7 %

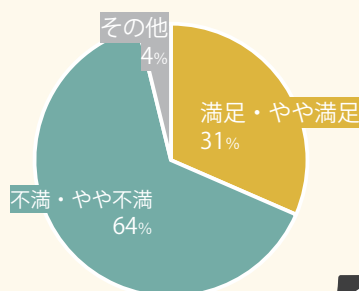
コラム

行政サービスの質向上に向けて

アンケートでは、「役場は地域のことを真剣に考えている」と Q. 役場は地域のことを真剣に考えていると感じている方は約 3 割という厳しい評価をいただきました。

また、行政のデジタル化への満足度も約 2 割にとどまっています。この声を真摯に受け止め、スマホ申請などの DX 化で「便利になった」と実感できる改革を進めます。

行財政の透明性も高め、皆さまに信頼され、期待に応えられる役場を目指して進みます。



《用語解説》

行政 DX、自治体窓口 DX

デジタル技術を活用して行政サービスや業務を効率化・高度化する取り組み。

財政指標

国や自治体の財政状況や健全性を客観的に示す数値や比率のこと。

中期財政計画

国や自治体が財政運営の見通しを立てるための、複数年（3～5年）にわたる計画のこと。

QOL (Quality of Life)

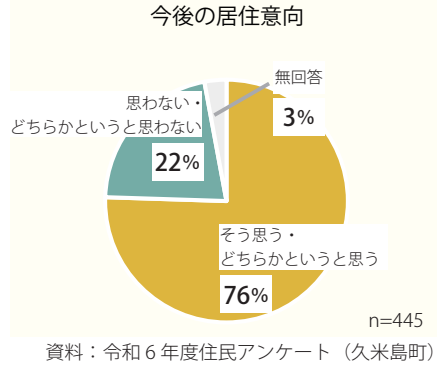
生活の質のこと。生活の満足度や幸福感を表す指標として、日常生活や医療、福祉、仕事など、幅広い分野で使われる。

町民みんなで推進する総合計画

現状

町民みんなで推進する総合計画

- ・ 総合計画の策定や実施において町民の意見を聴く機会はあるものの、継続的な関与を促す仕組みは十分に整備されていません。そのため、町民の主体的な参加や計画への理解が深まりにくい状況です。
- ・ 地域課題の解決において住民主体の取り組みや変化に対応できる意識が求められていますが、町民の参画意識は十分に高まっておらず、主体的なまちづくりへの動きは限定的です。
- ・ 若年層や高齢者、移住者など、多様な立場の住民が交流・対話できる機会は限られており、世代や背景を超えたつながりの構築が十分とはいえない状況です。



課題

町民みんなで推進する総合計画

- ・ 計画策定から実施・評価に至るまで町民が関与できる体制が必要であり、参画を促す工夫が求められています。
- ・ 積極的なまちづくりへの参画を促す支援や啓発の取組を継続的に行う必要があります。住民の意欲を引き出し、行動につなげる仕組みづくりが求められています。
- ・ 共助・公助を基盤とした地域力を高めるためには、多様な住民が関わり合い、支え合う場や仕組みづくりが必要です。地域全体での連携と共感を育む環境整備が求められています。
- ・ 全体的な参画意識を高めるとともに、関心の低い層にも働きかける幅広いアプローチが必要です。多様な住民が無理なく関われる仕組みや参加のきっかけづくりが求められています。

▼ 写真：計画策定に向けた中学生ワークショップ



▼ 写真：計画策定に向けた住民ワークショップ



《用語解説》

SDGs

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。2030年までに世界が達成を目指す17の国際目標のこと。2015年に国連で採択された。

共助・公助

共助は住民同士・地域・コミュニティの支え合いを指し、公助は行政が提供する公的な支援を指す。

PDCA サイクル

業務改善やプロジェクト管理で用いられる。P（Plan：計画）→D（Do：実行）→C（Check：評価）→A（Act：改善）の4段階を繰り返して、継続的に質を向上させる方法。

施策の展開

(1) 住民満足度向上に向けて 企画

1. 町の振興や行政サービスの改善に向けて、役場職員の連携強化、町民との協働による総合計画の推進を図ります。
2. 行政運営に当たっては、住民への広聴広報に努め、住民に寄り添いながら取り組みます。
3. 経年的に住民の声や満足度を把握し、総合計画や個別計画などの策定・見直しに活用します

(2) 地域力の向上と計画推進に向けた取り組み 企画

1. 共助・公助を基盤とした地域力の向上に向けて、多様な住民が関わり合い支え合う場や仕組みを構築し、地域全体での連携と共感を育む環境の整備を推進します。
2. 総合計画の着実な推進を図るため、Plan（計画）、Do（実行）、Check（検証）、Action（改善）のPDCAサイクルを毎年度継続して実施するほか、目指そう指標に対する進捗状況や改善策などについては、ホームページや広報により、広く町民に周知していきます。
3. 国連が掲げる持続可能な開発目標SDGsの達成に向けて、総合計画の中で一体的に推進します。

目指そう指標



みんなで織り上げる久米島の未来に向けて

アンケートでは、「ゴミ拾いをする」「行事に参加する」「SNSで発信する」など、自分でできることで島に貢献したいという頼もしい声が多く寄せられました！総合計画は、役場だけで作るものではありません。こうした皆さんの「想い」と「行動」こそが、久米島の未来を創る原動力です。一人ひとりが主役となり、みんなでワクワクする未来を織り上げていきましょう！

《これから10年間何が大事ですか？》

自由意見から抜粋

地域参加

- ・ 地域行事への参加
- ・ 移住者との交流
- ・ 助け合い・思いやり
- ・ 移住者をあたたかく迎える

意識改革

- ・ 島の現状を自分事として捉える
- ・ 行政任せにしない
- ・ 投票行動・政治参加
- ・ 島のことを学ぶ

環境活動

- ・ ビーチクリーン
- ・ ゴミ拾い
- ・ 家庭ごみ削減
- ・ 自然や景観を大切にする

情報発信

- ・ SNSでの情報発信
- ・ 島外へPR
- ・ 食イベント活動で「食の島」として認知を広げる

(目指そう指標の考え方・一覧表が入ります。)

(目指そう指標の考え方・一覧表が入ります。)

(職員ワーキングの記録が入ります)

(職員ワーキングの記録が入ります)

(職員ワーキングの記録が入ります)